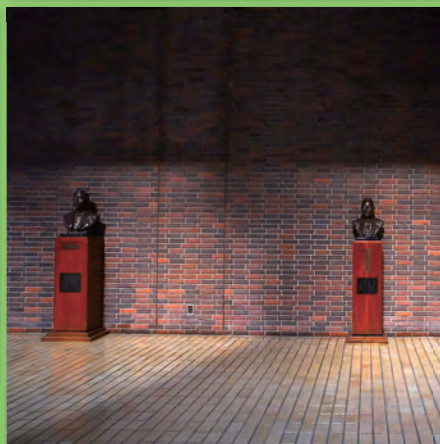


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第392号

目 次

グラビア 水道橋校舎新館竣工 ふるさと自慢 会員往来 いなげ	
巻 頭 言	1
地域理事の声	2～3
お知らせ	4～5
重点事業へのアプローチ	6～12
会 務	13～20
理事会のうごき	21～22
東日本大震災対策部会	23～25
保 険	26～29
学 術	30～35
母校だより	36～38
父兄会だより	39～40
支部のうごき	41～47
クラス会だより	48～52
OB会・グループ・サークルだより	53
すいどうばし	54～55
庶務日誌	56
逝去会員	57
追 悼	57
投稿規定	58
いいんかいしょうかい	59
へんしゅうこうき	59

水道橋校舎新館竣工

水道橋校舎新館が竣工し、竣工式が挙行されました

去る7月19日（金）に「水道橋校舎新館竣工式」が挙行されました。同窓会役員も出席し、矢崎会長が玉串奉奠をされました。地上13階、地下2階の水道橋校舎新館は、水道橋駅に隣接する本館から白山通りを九段下方向へ約120m行ったところにあります。第3・4・6学年の勉学の間となるこの校舎は、血脇記念ホールをはじめとして各学年の教室や基礎・臨床の実習室、作業室、解剖実習室がそなえられ、専門教育の中心としての機能を発揮するように整えられています。

地上13階と高い建物ではありますが、外観はとてもスタイリッシュで、各学年の教室と関連する実習室が、移動が最小限になるよう隣接する階に設置されたり、図書館に隣接する自習やディスカッションのできるスペース、陽光や風を感じられるバルコニーなど随所に工夫が感じられ、非常に素晴らしい学習環境が整いました。

この新館の落成により水道橋キャンパスが完成します。9月2日の授業開始からフルに運用がされれば、日本一の歯科大学のポジションはさらに盤石なものとなるでしょう。



式場全景



矢崎会長乾杯



町田名誉教授、寄附者代表として表彰



熱田常務理事御神酒拝受

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

五十嵐 準先生と旧五十嵐歯科医院 (国の有形文化財に登録)

静岡県



現在の旧五十嵐歯科医院風景

私の住む静岡市は平成15(2003)年4月に旧静岡市と旧清水市が合併して人口70万の中核都市となりました。また2年後の平成17(2005)年4月には政令指定都市に昇格して現在に至っています。静岡県内には浜松市も政令指定都市に指定され県内発展の中核となっています。浜松市は楽器やオートバイなどの音楽や産業の街といったイ



国の登録有形文化財の証



東歯同窓である証明



2階の診療室風景

イメージがあるのに対して静岡市は気候温暖で風光明媚，登呂遺跡や徳川家康公に代表される歴史や観光の街といったイメージがあります。また直近の話題では富士山と三保の松原が世界文化遺産に登録され，国内外からも注目されるようになりました。



8帖2間続きの待合室



旧五十嵐歯科医院の1階は住居部分となっています。1階の住居には重厚な金庫が置かれています。患者の治療に使用する金などが保管されていたと言われています。



金の圧延器と電気エンジン

東歯同窓として，富士山や徳川家康公以上に紹介したいのが，五十嵐 準先生と旧五十嵐歯科医院です。五十嵐 準先生は大正3年10月に東京歯科医学専門学校（現在の東京歯科大学）を卒業され，静岡市蒲原にある実家を改築して歯科医院を開業されました。当時は歯科医院そのものが稀でしたが洋風建築の歯科医院は当時随分話題となりました。歯科医院は大正期以前に建てられた町家を洋風に改築して一階が住宅部分で二階が診療所と技工室と待合室という配置です。当時はまだ水道が完備されておらず，二階の診療室にはポンプで水を汲み上げていました。

五十嵐 準先生は昭和25年にご逝去されましたが，その後も歯科医院は現存し，平成12（2000）年



整理箱の中「ニシキソルダー」「銀パラヂウム合金」があった。



技工室の横にある手洗いと器具棚

には在来の町屋の特徴を残しながら外観が洋風というユニークな点が評価されて歯科医院としては珍しく国の有形文化財に登録されました。現在は静岡市が管理しています。歯科医院内の見学も可能です。近年のウォーキングブームの影響か取材に行った当日も何人かのウォーキング姿の見学者が訪れていました。東京・名古屋から交通の便も良いので日帰りでも十分です。東歯同窓ならずとも一度，休日を利用して旧五十嵐歯科医院を訪れてみて下さい。帰りには静岡の美味しい魚料理と自慢の日本酒に舌鼓を打ってください。

旧五十嵐歯科医院

かんぼら
静岡市清水区蒲原3-23-3
TEL & FAX 054-385-2023
休館日 月曜日・祝日の翌日・
年未年始
開館時間 9:30~16:00迄
アクセス

新幹線静岡駅下車

(東京から約1時間半)

JR 東海道線新蒲原駅下車

(徒歩7分)

東名高速清水インター下車約
20分

(昭和60年卒 井川利幸)

会 員 往 来

井若芳郎先生の紹介

井若芳郎先生は平成13年4月、我々の講座に大学院生として入局してきました。入局当初から人なつっこい笑顔と持ち前の優しさで、すぐに同級や先輩の大学院生と仲良くなっていったのを今でも覚えています。

大学院とは、あるテーマについて世界でまだ誰も見つけていない新しい知見を4年間の中で発見し、そして論文にまとめる作業をする、とても大変なところです。井若先生は闘志をうちに秘め、計画的に問題を解決していく能力を潜在的に持っていたと思いますし、大学院の時代を精進して研究に打ち込んでいく中で、その能力をとても高めたと感じています。この度、我々の講座では一般の患者様へ、歯科診療を受ける重要性を理解していただくため（口腔機能を正常に維持することが全身の健康につながること）の書籍「口腔からウェルエイジング（クインテッセンス出版）」を発行し、歯科診療の啓蒙につながると大きな反響を頂いているところです。井若先生の研究成果がその一助となっていることは言うまでもありません。



解剖学講座主任教授
阿部伸一

また、井若先生は研究の傍ら江戸川区の診療所で多くの患者様を治療してきました。とても患者様から信頼され、大人気だったと聞いています。井若先生は、診療技術はもちろんの事、「聞く力」を持っている歯科医師です。ただむし歯や歯周病を治すのではなく、患者様が不自由になった事を親身に聞き、一緒にその問題を解決していく診療をできることが、患者様から信頼される一番の理由だと考えています。そんな井若先生ですから、現在の開業地における診療におきましても、患者様に対し「聞く力」を持って対応し、さらには歯科医師会の活動にも真摯に貢献する人材であると確信しています。

「ボディービルダーたる前に、歯科医師たれ」

井 若 芳 郎 (平成12年卒)

まず初めに、阿部主任教授の紹介にありますように、卒業後は解剖学講座大学院研究科に入局しました。入局当時は外見上も今とは別人のように、やや細身のガッチリとした今で言う“細マッチョ”的な風貌でした。身長175センチ、体重70キロ、体脂肪13%程だと記憶しています。現在、体重92キロ、体脂肪7%。言うまでもなくこの変貌ぶりに、先日行われた5年振りの105期同窓会では誰もが驚く始末となりました。

中学、高校時代は奈良県の西大和学園という進学校で部活動が無く、個人的に空手、総合格闘技を学び、その場でウエイトトレーニングに出会ったのが最初のきっかけでした。その頃アメリカのプロボディービルダーの映像を見て、大きく鋼の様な肉体に尊敬し憧れ、トレーニングを始めてみたのです。しかしながら急にそんな身体になる訳ではなく、一体何年掛かるのか、本当になれるのか？そういう思いだけが強くなり、気持

ちの中ではすっかり諦めてしまっていました。大学に進学し環境も変わり、年間300日は朝一海に通うほどサーフィンに夢中になっていました。無事、途中滞る事無く国家試験合格、その発表を見る前にアメリカの大学に留学、アメリカで生活しサーフィンをするという当時の“夢”を実現させたのでした。

それから1年が経とうとする頃、当時の解剖学講座の主任教授、現在の井出学長から、そろそ

る帰国して歯科医としてのキャリアを進めた方が良いのではないかというお言葉を頂き大学院への進学となったのです。新たな環境において、研究の傍ら毎日サーフィン出来るものでは無くなり、忙しいながら1日30分でも1時間でも、少しでも肉体を鍛えておこうと思いトレーニングを本格的に再開したのです。幸い私の通っていたジムにはボディビルの全日本クラスの選手が数人在籍し、仲間や指導者に恵まれ、ボディビルダーとしての道を歩みだす事になったのです。

主な戦績として、2009年米軍横須賀基地日米親善ボディビル、ヘビー級優勝、2011年米国 Muscle Beach International classic heavy weight 2nd, 2012年 Best Body Japan finalist, 等があります。現在は同じ歯科医で日本歯科大学出身の妻と共に、妻の地元、山形県天童市で3年前に開業、地域密着型の歯科医療を日々行う傍ら、GILLというトレーニング施設のスーパーバイザーを務め、自身のトレーニング以外にパーソナルトレーナーとして、トレーナーの指

導者として、ダイエットや食事、サプリメント等も積極的に行い地域社会に貢献し始めたところです。また今年の7月20日には、ロサンゼルスにてボディビルコンテストに参戦予定です。きっとこの会報が発行される頃には結果が出ていますが、念願のアメリカ、ボディビルコンテスト優勝を目指して現在、最終調整を行っているところです。

一見するとメディア等で扱われるボディビルのイメージはお笑いのものも多く、現実に行われている日々のストイックな生活とはかけ離れています。アメリカのコンテストレベルで優勝するのはやはり、並大抵の事ではありません。私も日々相当な時間と努力、情熱を傾けてここまで来ました。一度は高校生のとき諦めたものの、歯科医になってから始めたボディビルでここまで来れたのは、学生時代に学んだ解剖学、生理学、生化学、栄養学等の基礎知識があったことも大きな一要素となっています。またそれらの知識はセミナーでの演説にも大変役立

ち、私の財産となっています。

昨今のダイエットブームによって、セミナーの依頼が増えてきました。まやかしのダイエット法ではなく、理論的な本物のダイエットやボディメイキングに世間の注目が注がれ始めてきたことを感じます。ただ闇雲にトレーニングをしても疲労だけが残り、ダイエットにも筋肥大にもなりません。やるべき事を理解し、実践する。実践するかどうかはヤル気の問題ですが、理論を理解する事は我々歯科医師の様に医学の基礎を学んだ者にとっては難しい事ではありません。今になって、東京歯科大学で学んだことの有り難さを実感しています。

今回、このような私に投稿の機会を与えて頂き大変感謝致しております。同窓の先生方も、歯科とは別分野から社会貢献にアプローチする変わった歯科医もいたんだなど、東京歯科大学同窓会の懐の深さを感じて頂ければ幸いです。



2009年、米軍横須賀基地日米親善ボディビルコンテスト、ヘビー級優勝時、妻と



Muscle Beach International classic heavy weight 2nd



21歳 大学三年生当時



34歳 2009年



38歳 2013年 現在調整中



36歳 2011年



38歳 2013年 現在調整中



38歳 2013年 現在調整中



セミナー風景



診療風景



左の大学生時代から順に現在へ

いなげ

いなげの夏の思い出

真っ黒に日焼けした夏，仲間達との旅行の計画，お休みの学生を横目に診療と研究にあけくれた
白衣の夏…

それぞれの「いなげの夏の思い出」

(昭和56年卒業 橋本貞充 写真
広報部 佐々木葉子 記)

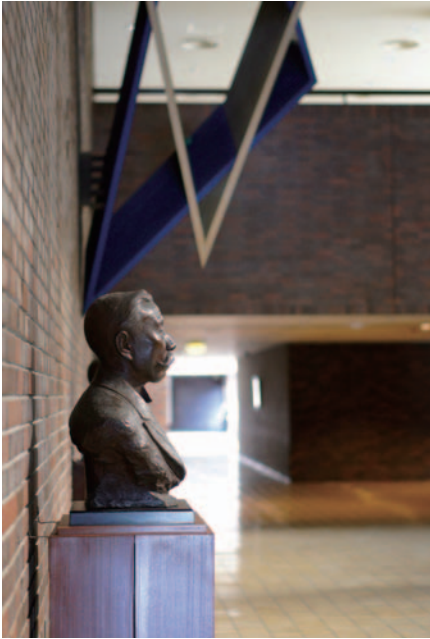


「夏の日のグラウンド」
青い空とながれる白い雲。
ボールを蹴る夏。
デンタルに向けて
仲間たちの声が響く…。



「アイスクャンディー♪♪」
練習のあと。アイスクャンディーのなんて美味しいこと！
ビールより，やっぱりアイス！！

「夏の終わりの夕暮れ」
明日から授業再開！
久しぶりにみんなに会えるのは嬉しいけれど
やっぱり夏休みが終わるのは，淋しい！！
あっという間の夏の楽しい時間。



「夏の朝…」
学生達がない
とても静かな空間。
時間が止まっている。



「眩しい夏」
玄関の前。
銀色のオブジェが太陽に輝いて。
キレイ。



「基礎棟と講義棟のうち庭」
やわらかな木漏れ陽がさして
涼しげ。
ここだけは別の空間。



「アメリカデイゴの赤い花」
図書館から厚生棟へ向う
いつものみちの角にある。
ほんの短い季節だけの
とっても綺麗な真っ赤な花。
ワイワイとおしゃべりしながら
歩いていたから
気がつかなかったな。

「雨上がりの夜の中庭」
水銀灯に照らされた樹々の緑が
美しい…。
遠い虫の声。

リーダーシップをとる 同窓会



事業推進部常任理事

蛸 谷 剛 文

平成24年1月より、事業推進部の理事に就任させていただき、主に「シンクタンク」「社会保険」を担当させて頂いております。

「シンクタンク」として本年2月に、日本歯科医師会会長大久保満男先生をはじめ6人の講師をお招きし「超高齢社会を迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト」と題しまして、「東京歯科大学同窓会フォーラム」を開催いたしました。シンクタンク委員会は、今回のフォーラムにおいて歯科医療のパラダイムシフトとして「チェアサイドでの口腔機能評価と機能向上を積極的に組み込むこと」を提案いたしました。今後も現代に於いて社会の進歩に取り残されつつある歯科医療の制度面、医療面を大きく変革していく試みとして歯科医療におけるパラダイムシフトを、東京歯科大学同窓会から提案していきたいと思っております。

「社会保険」におきましては、保険委員会として昨年の診療報酬の22年度改定におきましては、いち早く情報を会員各位へ発信するとともに、改定内容の分析を行い解説等を会報に掲載して参りました。

また、全国社会保険指導者研修会と同日に行われます同窓会の「全国社会保険指導者懇談会」に於きましては、各都道府県の先生方よりご意見を頂き、各地区ごとの保険の取り扱いに差異が認められ、全国を一律にまだ語れない現状に戸惑いを感じました。同日開催の講習会においては、日本歯科総合研究機構の恒石美登里先生より、データに基づいた社会保険の現状、将来像をお話し頂きました。将来の日本の歯科を考えたとき現状の分析、解釈を考えるのも重要ではありますが、日本歯科医師会・日本歯科医学会がリーダーシップをとって社会保険制度を改革していかなければいけないことは言うまでもありません。そこに私たち東京歯科大学同窓会の知識と知恵をいかに反映させていくか、言い換えれば同窓会として人と知恵をそういう組織に送り込むことにより、同窓会会員の意見を改革の中に反映させていくかが今後の同窓会保険委員会の課題ではないかと考えます。そこでいま私たちは保険委員会のあり方の改革に着手しているところであります。小さな委員会、多くの人たちの知恵・経験を凝集、それを大きな力へ替えていく、そんな委員会に変えていきたいと考えています。

TPP 参入の検討等がおこなわれつつあり、新たな医療制度の改革が始まる兆しが見えてきました。その中に於いて歯科医療としてのパラダイムシフトも重要であります。医療制度におけるパラダイムシフトも重要であり、大きな変革の風が吹いてくる中、いかにその風をゆるめ、その風を追い風として味方につけていくか、歯科医師会、同窓会の知恵と力が試されるときにきています。同窓会も120年を向かえようとしています。血脇守之助先生が日本の近代歯科医療制度の確立に尽力したように、また日本歯科医師会の創世記に日本の歯科医師をまとめたように、これからの保険委員会・シンクタンク委員会、東京歯科大学同窓会が歯科医療だけでなく、日本の医療制度、医療行政に対し大きな力として、良い方向への変革の先頭に立って努力をしなければいけないと思っています。TDCA120年、新たな同窓会に躍進していくものと信じております。



過去に学ぶ

地域選出理事（近畿） 永田 賢司

「明治初期の頃、多くの日本人が海外に留学しました。彼らの多くは、欧米に出向いて行って、賞賛を受けて帰ってくる。海を渡る前、おそらく彼らは、西欧のエチケットはほとんど知らなかったはずです。レディー・ファーストやフォークとナイフの使い方もよく知らないし、シェイクスピアやディケンズも読んでいない。世界史も世界地理もよく知らなかった。福沢、新渡戸、内村、岡倉などは例外ですが、多くは肝心の英語さえままたま知らなかったはずで、ただ、尊敬されて帰って来た。彼らの身につけていたものは何か。まずは日本の古典をきちんと読んでいた。それから漢籍、すなわち漢文をよく読んでいた。そして、武士道精神をしっかりと身につけていた。この三つで尊敬されて帰って来たのです。」

最近、機会を得て再度、藤原正彦の「国家の品格」を読み直しました。その中の一文です。加えて彼は武士道については、新渡戸稲造の考え方を説明し、それらが日本の品格に果たした役割の大きさを説いています。

私は読んでゆくにつけ、我が大学の学長であり、日本の歯科医師会の会長でもあった血脇守之助先

生とオーバーラップしてなりませんでした。

我が校が日本の歯科の出発点を作り、その影響を受け今我々がここにあることを思うと、現在の若い歯科医にその自覚がなく、ややもすると自己中心的な行動に苛立ちを感じています。同時に他人を思う重みを伝えておけなかった自分に、忸怩たるものを持っています。

突然、今はなき50年前の母の声、「誰も見ていないと思っても、お天道様は見てますよ。」こんな言葉今は死語か。

私は小さい頃から、誰とも理解しないまま、我が家に飾ってあった血脇先生の写真やレプリカを見ていました。近年、祖父が血脇先

生の日本歯科医師会会長時代に副会長をしていたことを知り、一枚の写真を見つけました。最初は、どちらが祖父かも解らなかつた位です。歯科医である限り、また東歯大を卒業させてもらった限り、彼ら先人の歯科医に敬虔なる尊敬を払わなければならないことに今更ながら気がついています。

今回の新血脇記念ホール建設の寄付金の募集状態が良くないと聞きます。先人の偉業にもう一度照顧脚下して、歴史を考え、血脇会館の設立に力を入れたいものです。過去から多くのものを得ることが出来た今の環境に感謝して…。

so, other may live.



血脇先生(左)と祖父(右) (京都にて)

初代祖父の歯科医籍番号が454号。4代目私の息子は157,000番台、あとしばらくは歯科医師数の適正化は望めない。



東齒を出て良かった

地域選出理事（中国） 小 徳 省 三

私は昭和24年に鳥取県境港市に東齒卒の父の3男として生まれました。父の東齒の自慢話を聞いて育った。卒後、東齒43年卒の兄の同級生の北海道室蘭のエルム歯科の古谷先生、水野先生のお世話になった。両先生のご指導を受け、貴重な勉強をさせていただき、大変に感謝しています。

北海道で5年間の修行の後、兄の医院で勤務し、現在地で55年に開業、33年を経た。平成16年東齒卒の息子は別の場所で開業した。現在は悠々自適の人生を送っているはずであったが、私の不徳で患者減から甘くない生活をしている。そんな時に同窓会理事に選ば

れ、2ヵ月に1回東京出張が始まった。これは大変なことになったと思ったが、理事会には梅村副会長を始め6人の同級生がいて、楽しいものだ。同窓会本部では多数の先生方が殆どボランティアの様に頑張っている。本当に敬服する。

6月に鳥取県米子市で中国地域支部連合会の総会を開いた。矢崎会長、財部常任理事、原監事をお迎えし、講演会講師には横浜の同級生丸森英史先生に依頼した。丸森先生とは学生時代1回も話した記憶はないが快く引き受けてもらった。さすがに講演内容は素晴らしく、一緒に卒業しても改めて

レベルの違いを痛切に感じた。同窓の皆さんも是非丸森先生の講演を聞いて下さい。又普段話す機会の少ない矢崎会長ともお話しが出来、改めてその超人格者振りを再確認した。超人格者と接すると、改めて自分の至らなさをものすごく感じる。

今回の地域総会や東齒の同窓会等に参加するといつも東齒を出て良かったなとつくづく思う。疑わなくてよい同級生等と話すのは本当に楽しいものだ。

最後に、特に後輩の先生方は東齒のこの素晴らしい人脈を最大限有効に活用して欲しいと思います。



お知らせ

理事会より

- 新進会員の同窓会費振り込みについて
新進会員の方は同窓会費の預金口座振替による納入が可能です。(一般会員の方は従来どおり支部を通してご納入ください。) 詳細は同窓会事務局にお問い合わせください。

同窓会事業・行事

- 第41回全国ゴルフ大会
と き 平成25年9月12日(木)
ところ 横浜カントリークラブ(神奈川県)
- 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成25年11月17日(日)
ところ 東京歯科大学(水道橋 血協記念ホール)
- TDC 卒後研修セミナー2013プログラム

卒研セミナー

No.3 実習セミナー『ゼロから学ぶセファロト
レーシングと症例分析』

9月29日(日)

No.4 臨床セミナー『歯科疾患!! どこから手
をつける?』
～病態の理解とタイプ別臨床診断・治療
計画～

10月13日(日)

No.5 実習セミナー『CAD/CAMを極める』

～初めてのオールセラミックス・支台歯
形成の基本から合着まで～

11月10日(日)

No.6 イブニングセミナー『今日からはじめる
こだわりのペリオ』

～歯根膜の臨床観察と歯周治療～

11月14日(木)

地域支部連合・支部関係

- 支部長交代
平成25年6月1日付
十勝支部 吉川 克己氏(昭52卒)
前支部長 榎安 秀樹氏(昭50卒)
- 平成25年7月12日付
熊本県支部 添島 正和氏(昭47卒)
前支部長 緒方 進氏(昭44卒)

母校関係行事・案内

- 平成25年度東京歯科大学学会
第296回総会 平成25年10月19日(土)・20日(日) 水道橋校舎
演題締切 8月27日(火)

島村 大先生（昭和60年卒）参議院選に当選

先般の第23回参議院議員通常選挙において、神奈川県選挙区で自由民主党の公認候補として立候補した、昭和60年卒業の島村 大先生が見事に当選されました。

当選が確定した時、選挙事務所には溢れんばかりの後援者が集まり、大きなよめきと、割れんばかりの拍手喝采、さらに万歳三唱と大変な騒ぎでした。

選挙期間中の記録的な猛暑の中早朝より街頭に立ち、良く日焼けした島村 大先生の満面笑顔に白い歯が非常に印象的でした。

736万人余の有権者を有する神奈川県選挙区において、113万652票を獲得しダントツのトップ当選でした。これは日本全国の選挙区においても堂々第一位の獲得投票数です。

選挙活動は、同窓会の加藤木 健副会長、杉山紀子理事、関 泰忠

常任監事をはじめ、神奈川県支部連合同窓会の多くの先生が中心となり進められました。

選挙期間中には、同窓会本部から矢崎秀昭同窓会長、佐々木眞澄常任理事、岡野祐三渉外委員会委員長等が、出陣式より、当選時まで応援に駆けつけました。また、当選に沸く選挙事務所には、早々に大久保満男日本歯科医師会会長、高木幹正日本歯科医師連盟会長もお祝いに駆けつけられました。

当選後、神奈川県支部連合同窓会島村 大後援会の加藤木 健代表は、「多大な信任を得て、当選の榮に浴することができました。島村 大は、誰にでも慕われる明るくやさしい人柄です。将来、必ずや日本国、特に歯科界のためにお役にたてる人材だと信じております。今後ともご要望等がござい

ましたら、何なりとご相談をお願い致します。」とお話しされています。

これで東京歯科大学同窓より、昨年初当選した衆議院議員白須賀 貴樹先生（平成12年卒）と、今回の参議院議員の島村 大先生と、衆・参両院に若く活力のある同窓会会員が存在することになりました。今後の両先生の益々のご活躍を期待し、同窓各位の更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さらに、全国の比例選挙におきまして、職域代表の石井みどり先生にも同窓の皆さんの厚いご支援を賜わり、前回より6万5千票余り多く獲得して、見事に再選を果たされました。

（渉外担当常任理事・

佐々木眞澄 記）



多くの同窓の先生方と



平成25年7月21日（日）初当選
鶴岡後援会幹事長の音頭で万歳三唱



矢崎同窓会会長と



大久保日歯会長と高木日歯連盟会長と



花束贈呈

重点事業へのアプローチ

東京歯科大学創立120周年記念事業募金ご協力ありがとうございます

寄付受付期間が8月31日から12月28日に延期されました

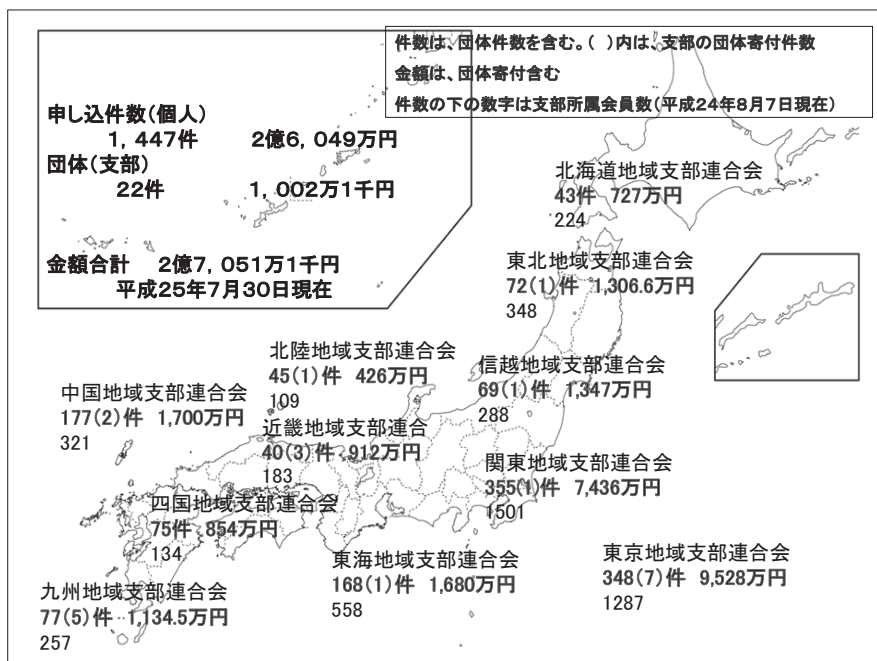
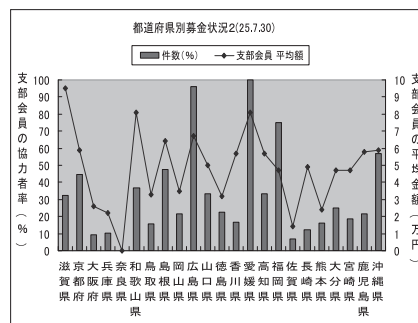
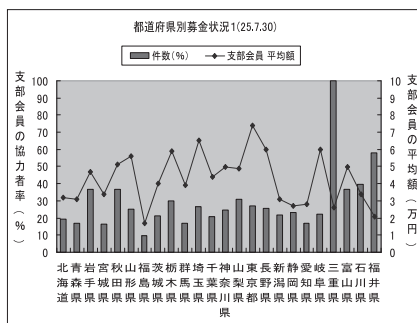
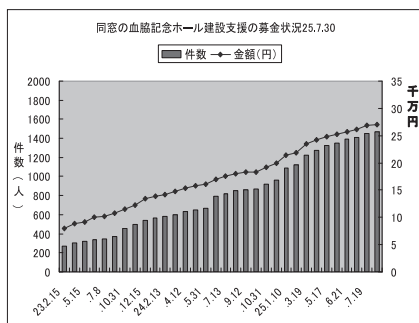
血脇記念ホールおよびミュージアム建設に対する同窓関係寄付は7月30日現在2億7,051万1千円に達し、個人では1,447件、団体（支部）では22件と全国津々浦々多数の同窓会会員よりご協力を賜りました。誠にありがとうございます。

この度、移転寄付金募集期間について以下のように延長が決まりましたのでお知らせいたします。

「移転寄付金募集期間の延長について」

最終受付期日 2013/8/31 ⇒ 2013/12/28
最終入金期日 2013/8/31 ⇒ 2014/03/31

水道橋校舎新館の竣工式が7月19日（金）に執り行われ、血脇記念ホールも重厚感ある色調と雰囲気をもった装いで完成されました。同窓会といたしましては血脇記念ホールおよびミュージアムの完成に対し全面協力し何とか目標である5億円を達成したいと願っております。まだ協力されていない同窓、更なるご協力と考えられている同窓そして支部におかれましては、募集期間が延長になりましたので、この機会に是非今まで以上のご支援を頂きたくお願い申し上げます。



初めての同窓会「新進会員の会」開催される

同窓会会長 矢崎 秀昭

現在の同窓会の最大のテーマとしている若手の会員との連携の具体的事業として若手ネットワーク委員会が中心となって同窓会「新進会員」の会が25年7月28日(日)に水道橋校舎の13階で開催されました。

学生や卒業して間がない会員に同窓会の意義などについて、より理解を深めてもらうために、昨年の評議員会で学生を同窓会の準会員とし、卒業5年目までの同窓会会員を新進会員とすることが決まりました。新進会員は入会金を無くし、また年会費も1万円に減額致しました。また、同窓会会員は全国に108ある同窓会の各支部に入会することになっていますが、新進会員は原則的には本部の直接会員となります。今回は平成25年から平成21年まで5年間の新進会員合計71名が参加されました。

理事長の金子先生、学長の井出先生にご出席いただき、大学の水道橋における今後の計画や大学の方針、若手の会員に対する期待などについてのお話がありました。さらに井出先生からは、卒業生は必ず同窓会や、将来は歯科医師会に入会し、自分たちの力で、同窓会や歯科界をよくする努力が必要で、他人任せでは日本の歯科医療の発展はないとの熱い思いを込めたお話がありました。

高橋同窓会専務理事よりスライドをつかって、平成になってからの卒業生の各支部への入会者が少

なく、それに伴い同窓会会費の納入も大幅に減少している状況についてなど、現在の同窓会の課題について説明がありました。

学術委員の加藤賢祐先生から、毎月水道橋校舎にて開催している、若手の会員の症例検討会には是非、新進会員のかたが参加し、共に研修して行こうとの呼びかけがありました。

新進会員による講演会とし、平成21年卒の柳沢哲秀先生から「マイクロスコープを使用した根管治療」の有用性について話されました。平成20年卒の山村啓介先生から「支台歯形成を見直そう」と歯肉縁上の形成などについて講演されました。平成21年卒の八木洋二郎先生からは「CRによる歯冠修復の高度なテクニック」の発表がされ、慶応病院に在籍している平成23年卒の黄地健仁先生からは、時代の最先端をゆく「再生医療の歯

科分野での進捗状況」についての講演がありました。

活発な質疑応答もあり、まとめとして副会長の宮地先生から今回は大変レベルの高い講演会となりましたが、今後は皆さんの日常臨床について話し合う会としても良いのではと、自分の臨床の写真などの記録の大切さについて話されました。

会場を14階にうつして鳴神顧問の乾杯で始まり、若手ネットワークの佐々木葉子先生の元気あふれる司会で、次々と新進会員の皆さまの意見を聞き出し、和気藹々と大変盛りあがった懇親会となりました。

初めての新進会員の会を開催するに当たり、その内容の検討から準備等、若手ネットワーク委員の方々の大変なご努力に心から感謝致します。



新進会員のついで

「新進会員のつどい」を終えて

卒業後5年以下の先生方のご参加とご協力により、盛会のうちに終わることができました。参加された先生方に改めて御礼申し上げます。会の準備を3ヵ月前から始め、各学年代表の方にはこの会の主旨を理解していただき、若手会員の親睦を目的にご協力をいただきました。当初は、若手会員のために講師をお呼びして、少しでも有益な情報を得てもらおうとの企画をしておりました。しかしながら、自分達が発表できる場を設けてくれないかとの意見が上がり、今回新進会員より4名の先生方の発表が実現いたしました。通常の講演セミナーとは異なり、臨床の姿勢、彼らが今思っている事を伝えた内容で、若手らしく非常に新鮮に感じられました。参加された若手会員も同年代の先生方が日常臨床、研究にと研鑽している姿を見て、共感と良い意味での刺激に繋がったかと思えます。同窓会としましては、若手会員自らがつくる会をサポートすることができ、新しい形の同窓会の場を提供できたかと思っております。また、このような会を通じて横の繋がりから縦の繋がりも深まることを期待いたします。

今回、日程が合わず出席いただけなかった先生方、今後も企画して参りますので、是非ご参加下さい。知識や技術の講演会も大切ですが、同世代の臨床に対する思いを知ることで、新たな発見があるかも知れません。

運営担当 木暮隆司

当日参加した会員からのコメントを紹介させていただきます。

「新進会員のつどい」に参加して

藤野雅史（平成23年卒）
私は開業医に勤務させていただいておりますが、年齢の近い若手の先生方がどのような診療をなさっているか、また、診療以外のことにしても情報を得られる機会がそう多くはありません。

「新進会員のつどい」は卒業5年目までの方が対象の会だとのことでしたので、同校の近い年齢の先生方の講演を拝聴することができました。また、講演後も懇談会があり講演の内容だけでなく多くの話を聞かせていただきとても刺激になりました。同窓の中で、このような会を開いていただき情報を共有できることは貴重なことだと感じました。

毛利有佑（平成23年卒）

今回、第一回新進会員のつどいに参加させていただきました。演者の先生方は卒業5年以内の若手

歯科医師ということで、私と非常に近い年代の方々でした。普段診療を行っている中で自分と年代の近い若手歯科医師がどのような診療・治療を行っているのか、そんな疑問は常にあったので、今回の講演は非常に新鮮で新たな刺激となりました。自分が是非参考にしたいと思えるような臨床的な内容はもちろん、自分が全く携わっていない研究という分野に関しても講演があり、自分の中の歯科という可能性が広がりました。

また講演会の後には懇親会があり講演会中には聞けなかったことなど直接聞くこともできました。今回参加できなかった先生方には、是非参加してみることをお勧めしたいと思います。

木村基善（平成25年卒）

今回は歯科医師になって日が浅い私達が普段の診療の中で接する

機会の多い問題についてスポットが当てられた内容だったと思います。マイクロ使用の有用性や、支台歯形成、コンポジットレジンによる審美修復、そして今後発展が望まれる再生医療についてなど、バラエティ豊かな内容で非常に濃厚な時間を過ごすことができました。

また自分とそこまで年齢が変わらない先輩方の発表する姿はとても良い刺激になりました。今後、学んだことを臨床の場で少しずつ実践していきたいと思えます。

1度目の開催ということもあり、運営の方々は様々ご苦勞をされたと思いますがこの集いを今後は私達で盛り上げていければと思います。本当に有意義な勉強会でした。次回もぜひ参加したいと思います。ありがとうございます。



受付



挨拶する矢崎会長



懇親会で



講師をお願いした先生方



懇親会で



質問者①



質問者②



質問者③



質問者④



懇親会後の集合写真

平成25年度 学生のエレクトィブスタディへの同窓会の支援

同窓会会長 矢崎 秀昭

大学が学生へのより広い教育事業活動の一環として行っている、夏季における学生の海外研修事業（Elective study）も本年度で3年目を迎えました。この事業は学生のうちから広い視野を養うようにと、大学が多くの費用を負担し、海外での研修を希望する学生の中から、特に優秀な学生を、各学年ごとに2～4名程度選抜して、総勢18名を短期間ですが、海外の歯科大学へ派遣するものです。

今年は第1～3学年が台北医科大学口腔学院に、そして第4～6学年が米国コロンビア大学等を訪問し、研修することとなっています。

同窓会としても、出来るだけ学生生活への支援と学生との連携を図るために、昨年度からこの海外研修事業への支援をしております。同窓会としては学生時代から、同窓会や歯科医師会などの社会的な意義を理解してもらうように、時に応じて学生へのアピールを試みております。

今回も大学から同窓会への特別なご配慮をいただき、1、2年生は、さいかち坂校舎において、また3年生～6年生には稲毛の校舎の授業中に、各学年の教室で、学長の井出先生と共に、大学からと同窓会からの表彰状の授与式が行われました。井出学長先生から、派遣される学生に対して、各教室で海外での研修の実を挙げるよう



にとの訓示がありました。

続いて同窓会会長の私から、選抜された学生に対してのお祝いと共に、無事に海外での研修が行われるようにと挨拶を致しました。また、各教室の学生に対して、学生の皆さんは現在、同窓会の準会員となっており、同窓会として出来るだけ学生の活動の支援をして行こうと思っていますと話しました。さらに将来、学生の皆さんが大学を卒業して歯科医師になった時、生涯にわたっての研修が必要となることから、自分ひとりで研修するより、同じ環境で学んだ仲間や、先輩、後輩が共に学んでゆく、多くの機会を同窓会として用意しているとの話を致しました。

特に来年の卒業が間近な6年生には、現在、同窓会が最重点課題として取り組んでいる若手ネット



ワーク委員会の活動について話し、同窓会としては卒業5年目までを新進会員として、この間に各種セミナーや研修会、さらに懇談会の開催などを企画しているとの

説明を行いました。

さらに同窓会としては現在、卒業式の当日、大学院を卒業する学生の中から、特に優秀な研究や論文に対しての表彰も行っています。

この様に、現在、東京歯科大学

においては単に国試の合格を目指して学生に勉学を強いているだけでなく、海外での研修も含めて、学生がより広い視野をもち、将来、国際的な場において活躍する努力もしております。

同窓会としても、この様な大学

の学生に対する事業に対して、支援を継続しておこなってゆきます。また学生が同窓会について、より理解を深める機会を大学が作ってくれていることに感謝します。



第1学年



第2学年



第3学年



第4学年



第5学年



第6学年

若手会員との連携を求めて

若手ネットワーク委員会の支援による113期生(粹翔会)の会の開催

同窓会会長 矢崎 秀昭

現在の同窓会の大きな課題である若手会員との連携を図るため、同窓会若手ネットワーク委員会が支援して平成20年卒(粹翔会)の卒業5年目の初めてのクラス会が開催されました。

最近の若手の同窓会会員の傾向として、卒業10年程度の期間に同期の会を開催している学年が著しく少なくなり、同期の会員との連絡も途絶えがちとなり、結果として、本部同窓会としても会員の住所等の管理もなかなか困難となってきています。卒業後5年間は新進会員として原則本部の直接会員となっていて、6年目からは一般会員となることから、この節目の学年の会を、同窓会が支援して開催することとなりました。

若手ネットワーク委員であるこの粹翔会の荒木優介先生が中心となって、同期の皆さんへの連絡や会場の確保、日程などを検討しま

した。はじめてのクラス会の開催とのことで、若手ネットワーク委員会の木暮先生(S62年卒)や牧野先生(S62年卒)はじめ委員の方々、担当理事による支援やアドバイスなど、今後の同窓会の活性化の一つの事業として行われました。

当日は、今後の粹翔会としての会のあり方、会則の作成、幹事役の選出などについての話し合いが行われました。その後、会場をホテルに移して懇親会が開催され、学年主任であられた佐藤 亨教授、柴原孝彦教授はじめ野村武史講師など副主任の方々も参加されました。

若手ネットワーク委員からスライドを使用して、歯科界における同窓会の意義やその活動内容、特に若手の会員の現状等についての説明が行われました。また同窓会のセミナー、症例検討会、ホーム

ページによる若手会員との繋がり等についての紹介も行われました。

今回のことは同窓会としての初めての試みであり、同期の会員への連絡等もなかなかスムーズに行かない事もありましたが、この113期生の方々が会則も定め、今回のこの会を機会に、今後は定期的にクラス会を開催することとなりました。

このことは将来の同窓会を担う若手の会員のなかで、先ず、同期の会を開き、横の繋がりを密にする機運を促す事となり、多いに意義のある会となったと思われます。同窓会として今後とも若手会員との連携を図るために、種々の試みを実行して行こうと思っています。若手ネットワークの担当の皆さんには誠にご苦労さまでした。



会 務

会務アラカルト

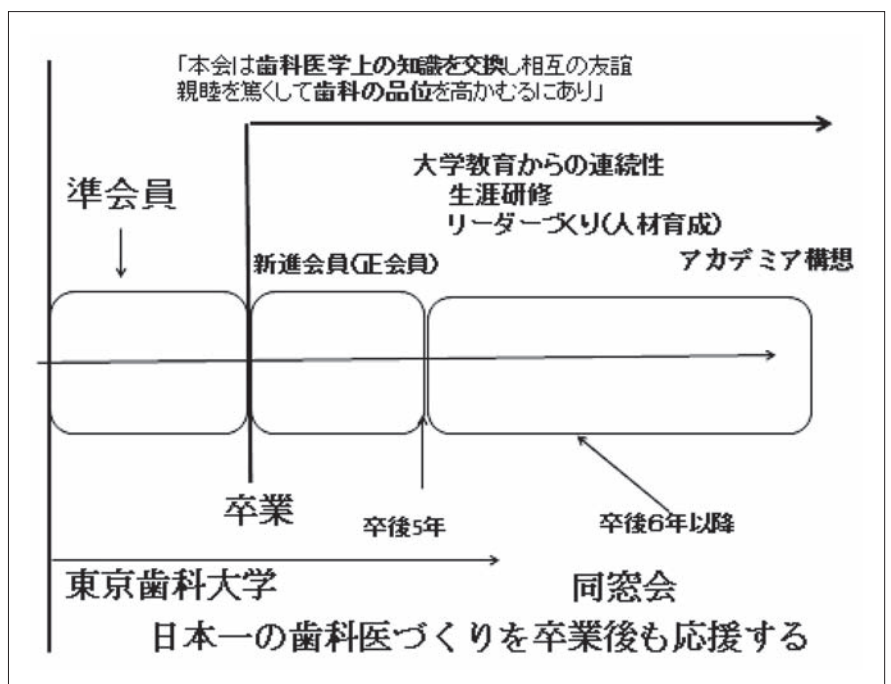
平成25年7月は、大きな事業がつづきました。19日（金）水道橋校舎新館竣工式が執り行われ、最新の大学施設そして血脇記念ホールを見学することができました。7日（日）には学年代表者を開催しました。昭和19年卒業の山根照人先生から平成25年卒業の木村基善先生まで70年幅の時空をもって56学年の学年代表者が一堂に会しました。先輩と若い先生との融合を虹が祝福してくれました。そして6日（土）には113期のクラス会があり同窓会が開催支援をしました。卒業して6年目の学年で、初めてのクラス会、同窓会についてしっかり認識してもらうため、若手ネットワーク委員中心にオリエンテーションが行われました。そして28日（日）には“新進会員のつどい”がありました。卒業後5年までの新進会員と本部がface to faceで若い先生方の声、疑問そして要望を直接聴きながらアプローチしようとするものです。今までにない企画で執行部でも不安と期待でいっぱいでした。なんと71人の出席、新進会員によるプレゼンテーションも素晴らしかったし、真剣な質疑も交わされました。懇親会ではお酒も入って和気藹々、皆さん「新進会員のための新進会員が作るつどい」を次年度も」との思いをもち、大きな声で校歌を斉唱し会を閉じました。

機構改革から若手同窓連携、

そしてそれに続く次なる構想は

昨年来からの若手同窓との連携推進のおかげで、いろいろな場面で若い同窓と接することが多くなりました。若い人の印象ですが、いつも身なりをきちんとし、礼儀正しく、マイクをむけられるとしっかりした意見を話し、一人一人と接してもにじみ出る個性を感じる事が出来ます。歯科医師国家試験合格率第一位に輝く母校は、96%の実績で130名の学生たちを合格レベルまで育てていますが、単に率の統計で優れているだけではなく、一人一人の学生を日本一のレベルまで資質を高めていることを実感します。一流の教職員スタッフと新時代の教育施設そ

して120年の伝統で社会に送り出される母校卒業生を、同窓会としても、日本一の歯科医になってもraithたいし、それぞれが望む歯科医師像にできるだけ近づけてあげたいものです。卒業後の幅広い学術的な支援そして人材育成も同窓会にとってとても大きな役割のひとつと考えることが出来ます。明治28年、高山・血脇先生が院友会をたちあげたとき、その会則に「本会は歯科医学上の知識を交換し相互の友誼親睦を篤くして歯科の品位を高かむるにあり」と会の目的を記しております。確かに、その後120年、その真髄を尊び、俗にいわゆる“同窓会=学閥のにおい”を遠ざけ、あくまでもアカデミックな色をにじませながらその



時代時代の同窓を支援してきたのが東京歯科大学同窓会です。

2年後の平成27年に東京歯科大学同窓会は創立120周年を迎えます。準備委員会では、記念事業の一つにアカデミア構想の実現を検討し、それにあわせて委員会、理事会でも意見交換が活発になされています。“アカデミア構想とは？”になりますが、構想とあるようにまだ具体的なものはなく、現在“具体案作りのためのたたき台”を作っている段階です。理事会や委員会の資料から構想の概要についてご紹介します。

アカデミア構想

大学教育から始まる日本一の歯科医づくりを、卒業後、生涯研修事業をもって受け継ぎ、品位の高い歯科医づくりを積極的に進めようという構想で、例えば、単にセミナーを開くのではなく同窓会事業の軸足を意識的に人材育成に重きをおき研修プログラムを作っていくようにするものです。もちろん学術関係に限定したものではなく、医療制度を考えたり、望まれる歯科界づくりにも貢献できる人材を創るなど、多彩な分野で活躍できる人材の育成を応援しようとする広大なプロジェクトなのです。

大学から卒業した後も広い意味で生涯研修の場であることから同窓会自体アカデミアであると解釈し“東京歯科大学同窓会アカデミア構想”と称しております。過去40年近くの経験をもち時代に即した企画をしてきた学術委員会、トップレベルの知識と経験を誇る保険委員会、医療のパラダイムシ

フトを目指すシンクタンク委員会、大学とのがっちり連携をめざす大学連携委員会、若手同窓をしっかりと受け止め多彩な事業展開をしている若手ネットワーク委員会の事業推進部の面々、そして情報のエキスパートである広報部、医政の舞台でしっかり下支えしている渉外部そして会員相互の連携を求める厚生部の諸氏をもってすれば必ずよい企画案が生まれ、大学との連携のもと『アカデミア構想の実現は夢ではない』と毎日議論に花が咲いております。

学年代表者会ではいろいろなご意見が

学年代表者会の様子は別頁で紹介されておりますが、いくつか要望がありましたのでご紹介します。

席田克巨先生（昭和44年卒）からのご要望で、『学年、クラス会と併記で、福祉会は第74期生と思いますが、通算の学年表記を採用してほしいとの意見がありました』とのことですが、確かに母校でも創立からの期の表記を採用しておりますし、以前ある支部から「歴史を認識することと、若い人との学年差が分かりやすいなど」と情報ネットを通じて提案もありました。大学になってから一期、二期と数え、クラス会の名前にも使っている学年もあることを配慮して、協議の場で座長である宮地副会長からこの提案について会場の代表者にご意見を伺ったところ問題はないとのことで、この件は前向きに執行部では受け入れることとなりました。ただし大学設置からの数え方を否定するものでは

なく、臨機応変にと考えております。

久保浩太郎先生（平成14年卒）から『成績優秀者や臨床に秀でたドクターに、もっと同窓会長賞を与えるべきだと思う』とのご意見を頂きました。成績優秀者、臨床に秀でた人に対して大学はエレクトィブスタディといって海外留学制度を行っており、同窓会もそれに協力しております。さらに3月の大学院修了式の際大学院優秀論文のお二人（6月号に掲載）に同窓会長賞、そして平成23年度歯学体で尽力した学生（準会員）の方々にも同窓会長賞そして女子野球ワールドカップで活躍した直井友紀さんにも同窓会長賞を授与しています。久保先生のご提案どおり、今後更に、すばらしい在校生に対して、あるいは同窓会に対してでも同窓会長賞を考えてゆきたいと思えます。

また久保先生からも一つ『後継ぎがない歯科医院を大学、同窓会が仲介となって引き継がせて頂ける制度があると良いと思えます』とのご提案については、まず同窓会の制度として定めるには難しい面もありますので、むしろ全国同窓の先輩方と若い先生方との絆を深めていただき、そのつながりから「引き継ぎ」の話が出るようになればと考えます。そのためには全国に窓口をおいた若手ネットワークが期待できるのではないのでしょうか。まずは若い先生方にHPの若手ネットワークを積極的に利用してもらい、いろいろな地域の先輩方の診療所見学や相談をされ、先輩たちと是非つながりを持っていただければと思えます。

その広がりにより自然と新しい可能性が生まれるのではと期待するところです。

さて、当日の昭和60年卒湯澤邦裕先生、昭和58年卒原 泰司先生、昭和56年卒小林 顕先生から要望や意見をいただきましたので、ここに紹介させていただきます。

「訃報の連絡をファックスでいただいておりますが、クラス会のメーリングリストに送るため、パソコンで打ち直す必要があります。メールでもいただければ、幸いなのですが」

「東京地域支部連合城東支部の会計をさせていただきます。

（クラス代表の意見ではございませんが）確か会費の集束手数料を毎年送金くださっておりますが、財政がきびしくなっているようでしたら、これらを廃止することも考えられてよいのではないのでしょうか？現金書留の送料もバカにならないのではないかと考えます。

（支部としてはありがたいのですが…）」

「専務報告において「支部未加入」者について

- ・会則上、住所地（開業、勤務、現住所）の支部に所属する原則ではないのでしょうか。従って「未加入」という表現は不適切ではないのでしょうか。
- ・新入会員に対するアプローチは支部の責務の一つではないのでしょうか。（「若い会員が支部にアプローチしてこない」のではなく、「支部が若い会員にアプローチしていない」ではないのでしょうか。

*我々の世代の多くは自らが支部に出向いたのではなく、支部の先輩から声かけで活動に参加するようになったと思います。

・評議員会（又は支部長会）で十分協議していただくことを希望、提案します。」

ご意見ありがとうございます。先生方のご意見を検討し会務に役立ててゆきたいと思います。

執行部基本方針

第3回理事会において総会の廃止、選挙規則の制定、一県一評議員の経過措置の2年延長、共済制度の見直し、基金規程の改正、など重要案件についての基本方針をかため、各地域支部連合会でのヒヤリングがはじまりました。いくつか紹介いたします。

（総会の廃止について）

新公益法人制度改革の中、総会を開催しない歯科医師会が増えてきておりますし、法人格を有しない東京歯科大学同窓会においても、地域の会員から選出された評議員により構成された評議員会において意思決定されており、総会の実質的な意義が薄れてきています。そこで総会を廃止し、評議員会に決議・組織の意思決定を委ねることを提案いたします。今年の評議員会でいただいた意見をもとにし、支部長の申し出によっても評議員会が開催できるようにしたり、評議員以外の会員が評議員会の傍聴をできるようにすることも提案する予定です。またHPではメールボックスを設置し、個々の会員からのご意見やご要望も理事会にあげられるようになりました

のでお知らせします。

（会長、監事の選挙規則について）

会長、監事の選出については、従来特に選挙規則を定めず執り行われてまいりましたが、評議員会において選挙規則として定めるべきとの意見が何度かあげられてきておりますし、地域支部連合会でいろいろな先生から同様のご意見を頂いてきました。そのようなことから、会長、監事選出のための選挙規則について検討し、平成24年度評議員会の協議題でご議論いただきました。そして今回評議員会において、東京歯科大学同窓会選挙規則を制定するため議案として提出することになりました。この選挙規則での要点のみ上げさせていただきます。

- ・原則としてその任期満了年の評議員会開催日に行う
- ・被選挙権は、支部入会后2年を経過した会員が有する
- ・選挙権は、各地域支部連合会の会員数により選出された評議員が有する
- ・選挙執行に関する事務は、選挙管理委員会が管理する
- ・候補者が定数を越えたときは、投票選挙を原則とするが、評議員会の議決により別段の方法によることができる
- ・この選挙規則は平成26年1月1日から施行する。

（一県一評議員の経過措置の2年延長について）

平成23年度の評議員会において、評議員選出にあたっては地域支部連合の会員数によることになりましたが、2年間の経過措置として各都道府県からは少なくとも

1名を原則として追加することになりました。ただこの経過措置の解釈は、単に2年経過で自然に消滅するのではなく、その間この経過措置のあり方について、評議員会のあり方とともに、継続的に協議をつづけることになっておりました。

各地域支部連合会からのご意見、会務検討特別委員会からのご意見、理事会での協議などをもとに審議した結果、『経過措置をさらに2年間延長することを提案する』ことに理事会では決まりました。その理由として以下の事がある

げられました。

- ・本部－連合会－支部間の情報共有化が完成途中である。
- ・会員、支部の声を地域支部連合会選出評議員が発言できる仕組みが未完成
- ・広範囲地域内の人的・情報交流が未確立である。
- ・地域支部連合会組織によってばらつきが多い。
- ・財政的な緊急性にまで若干の余裕がある。
- ・若手連携事業が途中で、学年代表者の取り扱いが未決定
- ・総会の廃止の議論があり、評

議員会のあり方が流動的

すでに評議員数が削減された地域においては経過措置存続に対し多々ご意見があるかと思いますが、各地域、地域支部連合会では情報の共有化あるいは意見集約システムなど努力され徐々に整ってきてはいるものの、特に会員数の少ない地域においては地理的な制限も大きく、全地域支部連合会内の支部間の連携を確立するためには更に2年間は必要と判断し、今回の結論に至りました。何卒、ご理解いただくようお願いいたします。



夏の学術全体委員会でアカデミア構想を議論
宮地副会長挨拶



グループディスカッション①



グループディスカッション②



保険委員会でもアカデミア構想の中のシンクタンク、人材育成について議論

平成25年度学年代表者会開催

平成25年7月7日（日）、TDCビル14階において平成25年度学年代表者会が開催されました。

本年も、同窓会と東京歯科大学との共同で開催され、昭和19年9月卒業(十六会・50期)の山根照人先生を筆頭に、今年の春卒業した平成25年卒業(良い歯会・118期)木村基善先生まで、56学年の代表の先生が集まりました。同窓会・大学関係者24名の総勢80名が出席し、財部正治総務担当常任理事の進行で進められました。

浮地文夫同窓会副会長の開会に続き、金子 讓法人理事長からは、「最近、日本の歯科界は元気がない。是非とも日本で一番歴史のある我が校から元気を取り戻していこう!」とご挨拶があり、続いて矢崎秀昭同窓会長からは、「今年も大学と同窓会が共同で開催できたことを嬉しく思う。大学側では、今春も国家試験合格率 No1 となったうえ、移転・建設などがスムーズに進んでいる。我が校が水道橋に移転してくることで、他校も必死になっているので、同窓



会としては血脇ホールの建設という面で大学に支援をしていきたい。また、今年度は、若手の支援を重点目標におき、同窓会が一丸となって同窓会の意義を理解し協力してもらってあげていただきたい。更に、同窓会創立120周年事業が2年後に控えているので、以前の水道橋・稲毛・これからの水道橋という世代が血脇イズムで統一して大学を盛り上げていこう。」との挨拶がありました。

出席者紹介のあと、4部構成で行われましたので、ご報告いたし

ます。

1. 同窓会関係の報告・協議 (同窓会会務報告) 高橋専務理事より

近年の会費収入減額により、今後は事業費の削減を行わなくてはならない。また、現在全国で9,088人の会員、11の地域支部連合会で活動を進めているが、支部加入率が低下している。今後は支部の力をどれだけ発揮することが出来るかが、我が校の同窓会のみならず、歯科界の組織力や広くは社会全体にも様々に影響を及ぼすこととなる。これに対応すべく、大学連携、若手との連携、若手の育成を重点事業とし、準会員制度、新進会員制度を基盤に大学との連携を進め、高山・血脇スピリッツを受け継ぎ次世代へつなぐために、大学や同窓会すべてが一体化して盛り上げていこうと考えている。具体的には、若手との連携を深めるために、クラス会開催支援、全国レベルのネットワーク作り、新



進会員の応援・支援、人材育成のスタートとして、7月28日（日）には若い先生達の発想で、若い先生達で作りに上げるという「新進会員のつどい」を開催する。日本一の歯科医を作る大学を卒業した歯科医に対し、同窓会でも日本一を受け継ぎ、会員相互の親睦だけではなく、人材づくり、生涯研修、社会貢献、というアカデミア構想を検討している。

（広報委員会報告）小池広報担当
常任理事

現在、会報誌は年5回発行しており、文字を大きくA4版にし、表紙・内容ともに写真を多くしてより読みやすく会員への現状報告、情報提供をしている。時代の変化に伴い様々な情報をより早く伝えるために同窓会HPや同窓会広報部フェイスブック（FB）も活用しており、HPは今年6月にリニューアルし、トップページを見やすく、より情報を入手しやすいようにした。また、新進会員への働きかけやメールボックスの設置、逝去会員の情報、特別な症例の情報なども提供しているので是非活用していただきたい。

（情報ネットより）臼井総務担当
常任理事

現在、同窓会本部から支部へ、支部から本部へ、本部からクラス会へ、クラス会から本部へ情報発信として「情報ネット」を運用しているが、現在全国実質106支部中103支部が登録していただいている。また、学年の登録も数学年を除き登録していただいている。HPに新設した「メールボックス」とともに、ご活用いただきたいので、是非登録をしていただき

たい。

若い先生の中で住所不明の先生が多数いる。本部より、学年別に住所不明者リストを送付することも考えているので、ご協力をお願いしたい。

（本部からの連絡）財部総務担当
常任理事

新進会員（卒後5年以内）の先生は、支部に入会していても可とし、新進会員である5年間の間に支部に入会していただくこととなる。その間の会費納入については、自動引き落としが可能となったので、希望される先生はお申し出をお願いしたい。

（同窓会からの協議）座長：宮地
副会長

東京歯科大学同窓会共済制度の見直しについて平成20年度の評議員会において共済制度が改正され、5年以内の見直しが条件となっていたことを受けて海野厚生担当常任理事から共済制度のこれまでの経緯・現状・今後の見通しについて説明があった。昨年の評議員会での意見をふまえ委員会において検討された今後の方針として①一部変更のうえ継続②80歳長寿お祝い金を受け取った場合は共済金減額③大規模災害に備えた共済金用途の変更について、シミュレーションを示して述べられ、執行部としては、支出を押さえた内容で共済事業を継続したいという意向の説明がなされた。それに対し、多くの代表者からは、継続する方がよいとの意向が示された。意見としては、昭和44年卒福祉会・74期席田克巨先生：会費収入が減る状況でこのまま継続する事に問題があるので、会員に戻すの

ではなく大規模災害に備えるべき。昭和41年卒踏志会・71期上竹成一先生：共済金は同窓会の団結を深めるために必要であるし、現在まで継続してきたのであれば、このまま継続すべき。昭和44年卒福祉会・74期席田克巨先生：共済金には、かなりのプール金が必要のため、再度詳細なシミュレーションをすべき。昭和49年卒七十九期会・79期大塚信郎先生：共済金は若い先生方に何か有ったときの為に使用するものであり、80歳お祝い金は必要ない。昭和54年卒弥生会・84期今村嘉宣先生：学年代表は会費を集める支部長ではないので、制度の決定に関しては支部の意見を聞くべきなどの意見が



席田克巨先生



上竹成一先生（中央）



大塚信郎先生



今村嘉宣先生



久保浩太郎先生

述べられた。執行部は、これらの意見を踏まえて今年度の評議員会で決定するために、この学年代表の先生にも説明しご理解をいただきたいとした。

(代表者からの事前質問への回答と連絡事項) 高橋専務理事

①年表記について(昭和44年卒福祉会・74期市田克臣先生)：クラス会名称と設立からの〇〇期との併記の方向でとなった。

②同窓会長賞について(平成14卒リーベン会・107期久保浩太郎先生)：様々な分野において同窓会長賞を設けているので、それに値する同窓生については本部へ報告してほしい。

③後継ぎのいない歯科医院を引き継がせていただける制度の要望(平成14年卒リーベン会・107期久保浩太郎先生)：制度としては難しいが、若手の先生方と先輩との連携を深めながら進めるとよい。そのような情報を共有するために、若手ネットワークのメールアドレスを活用していただきたい。

本年度の評議員会で上程される事項について同窓会全体の問題なので、評議員だけでなく、学年代表者のご意見もお聞きしたいとして、以下の説明があった。

①評議員の定数については、地域支部の会員数を基準に“一県一人

の評議員”の経過措置がとられ、昨年は78名の評議員で開催され、次の2年間もこの体制で行いたいと考えている。

②会長・監事選挙については、同窓会の公平性、透明性、伝統をもとに選挙規則を検討し、会員数に応じた投票権を採用し、経過措置は適応しないことで検討を進めている。

③総会のあり方については、評議員会に決議・組織の意思決定を委ね、総会の取りやめを検討すると昨年の評議員会で提案したが、その方向で進めたい。個人の意見を言う場がなくなってしまう、などのご意見を戴き、検討しているが、それに関しては、今年度設置

したHP上のメールアドレスや情報ネットを活用していただきたいと考えている。

2. 大学の報告

(代表者からの事前質問への回答)

①大学の合併について(昭和37年卒十期会・67期山内英徳先生)

②非常勤講師、社会人大学院生、特待生制度について(平成14年卒リーベン会・107期久保浩太郎先生)の質問があり、金子理事長、井出学長より説明があった。

(大学の現状) 井出学長

13階立ての新館では、教室と実習室が隣り合わせの階に設置され、移動がしやすく工夫してある。また階段での移動時には、外の景色が見え気持ちよく移動ができるような設計になっている。新館隣の学生交流棟(仮称)は、6年生が夜間まで勉強が出来るような施設になり、図書館では、静かに読書をするスペースとグループ学習が出来るスペースに分かれて



血脇記念ホール見学

いる。血協記念ホールは401席収容可能で、落ち着いたシックな雰囲気の中、この度、血協先生の像も設置を行った。現在のTDCビルの横から裏側にかけては、5階建てのビルを建築予定で、さいかち坂のビルより広い面積のビルが建つ予定。鶴屋ビル地下にある飲食店では、歯科大ランチの販売を行う予定。いずれにしても、将来に向け順調に進んでいるので、期待していただきたい。

国家試験に関して、平成25年各大学歯学部入学状況及び国家試験結果が文科省より発表された。我が校は入学定員削減計画以外、入学定員充足率、入学者選抜競争倍率、国家試験合格率、最低修業年限での国家試験合格率ともに数値は良く国の指摘する指標を満たしている。今後は、学生の質の向上とともに、5年計画で各講座の質の向上をはかる予定。

（水道橋病院の現状）矢島水道橋病院長

21世紀の医療・歯科医療の方向性として、①患者中心の医療②根拠に基づいた医療ということを掲げ、安心して紹介の出来る病院にするために職員の意識改革を進めていると述べ、スライドを中心に水道橋病院の説明をされた。

多くの代表者の先生方の貴重なご意見を今後の執行に生かしていきたいという佐瀬俊之副会長の閉会の後、水道橋新校舎の見学を行いました。

3. 水道橋校舎新館の見学

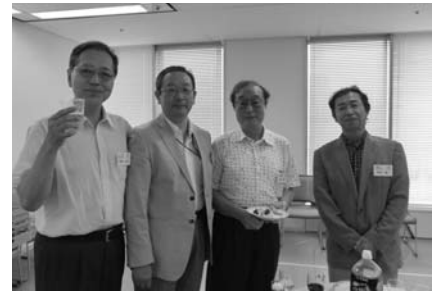
TDCビルの少し先に、道路から少しセットバックした上品な佇まいの新校舎があり、代表者の先

生方は、新しいビル特有のシーンとした空気と匂いに緊張しながら、血協記念ホールを見学しました。ホールは東京歯科大学らしい重厚感のある色調と雰囲気で、120年の歴史とここから始まる新しい歴史の融合を感じられるもので、参加者は、其々に写真を撮ったり椅子に座ってみたりと血協ホールの感触を確かめていました。その後、新館の裏側を周り、学生交流棟の見学に移るころ、突然のシャワーが降り出したため、早々に懇親会場となるTDCビルへ戻りました。

4. 懇親会

TDCビル14階に戻り懇親会が開会され、矢崎会長の挨拶の後、昭和23年卒業の中久喜 喬先生（いずみ会・53期）より「現在の東京歯科大学の発展は目を見張るものがある。これまでの歴史とこれからの新しい未来がさらに明るく輝かしいものであるように…」という乾杯のご発声とともに和やかに懇親会が催されました。若手の学年代表者の先生から昔の水道橋校舎を知る歴代の先生方が一同に介し、あちこちで様々な情報や意見交換など話の花が咲いていました。同窓会から、7月6日に行われた113期クラス会への支援の報告や7月28日に開催される「新進会員のつどい」の案内や広報部からHP・FBのご案内などがなされました。最後に、鳴神保雄顧問と佐々木眞澄常任理事の指揮のもと皆で校歌を斉唱し同窓会の絆を感じる時間でした。

現在、同窓会本部では、同窓のより強い連携を重点課題にあげて



懇親会



懇親会



懇親会会場より

様々な活動をしています。今後も更に会員にとって身のある同窓会であり続けるよう、この学年代表者を有意義な情報交換の場として利用していただきたいと思いました。今回、報告のあった会報誌、HP、FB、情報ネットなどを活用し、会員の先生方が同窓会をより身近に感じていただきたいと願います。

懇親会が盛り上がるころ、TDCビルの大きな窓から空を見ると、天高く虹が架かっていました。まるで、東京歯科大学の未来が、歯科界の未来が明るく輝くものであることを表すかのように…。

（取材・広報部 佐々木葉子）

理事会のうごき

第3回理事会

平成25年5月25日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 32名

議長 矢崎会長

会長挨拶

新館校舎工事の進捗状況を見学した。血脇記念ホールも内装を残すのみとなっている。同窓会の力を結集したホールとしてもう一息、寄付の推進を図っていきたい。

会務検討特別委員会から中間答申案が提出された。今後の同窓会の方向性について検討された内容であり、評議員会に向かって、理事会でも協議を重ねて頂きたい。

同窓会の抱える大きな問題として、会費収入の減収が挙げられるようになってきた。各担当者には、来年度は2割の経費削減を目指して頂くようお願いする。ただ大学の新館校舎竣工に係わる事業、同窓会創立120周年記念事業、会員システムの構築、名簿の作成等、必要なことは滞りなく進めながら、同窓会の活性を失わないよう工夫して頂きたい。

黙 禱

渋谷支部・横井隆一氏はじめ10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

1) 平成25年4月17日から平成25年12月21日までの日程を報告。

2) 各部報告

- (1) 総務・厚生部：①支部長名簿を配付。②逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。③会費、共済負担金納入延期願いが1件提出され、受理した旨の報告。④会費、共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑤共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑥平成25年春の叙勲受章者8名報告。⑦厚生委員会報告。⑧ゴルフ大会委員会報告。⑨母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑩情報ネットワーク推進会議報告。⑪会務検討特別委員会報告。⑫同窓

会・会務運営協議会報告。⑬東日本大震災対策部会報告。⑭会員管理システム検討委員会報告。⑮同窓会創立120周年記念事業準備委員会報告。⑯新進会員のつどい運営委員会報告。⑰平成25年度評議員変更の確認をする旨の報告。

- (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について3件報告。②地域支部連合会ゴルフ大会カップ代の支出について1件報告。③支部加入促進費の支出について報告。④平成25年度4月末現在現況報告。⑤事務職員夏季期末手当について報告。

(3) 渉外部：①渉外部委員会報告。

(4) 広報部：①広報部委員会報告。②同窓会HPアクセスレポート報告。

- (5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2013報告。④保険委員会報告。⑤大学連携委員会報告。⑥シンクタンク委員会報告。⑦若手ネットワーク委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事、九州地域・田部理事より書面にて報告。

協議事項

- (1) 母校創立120周年記念事業募金協力の推進対策を協議。
- (2) 会務検討特別において継続して審議している東京歯科大学同窓会選挙規則について、提出された中間答申を執行部案とすることについて全会一致で承認。
- (3) 一県一評議員の経過措置および評議員会のあり方について協議、継続審議。
- (4) 会務検討委員会の中間答申に従い、血脇記念基金、同窓会基金を一元化する提案を協議の結果、承認。名称と内規は継続審議。
- (5) 会務検討特別委員会の中間答申に従い、昭和63年以前の会費徴収を中止する提案に対し協議の結果、承認。評議員会において会計報告として承認を得るものとするについては、継続審議。
- (6) 東京歯科大学水道橋キャンパス竣工のお祝い金支出を協議、承認。金額は会長一任。

- (7) 新進会員のつどい実施時の諸経費会計処理について協議, 承認。
- (8) 事業推進部・保険委員会に委員2名, オブザーバー1名の増員案が提出され協議, 承認。人選は会長一任。
- (9) 東京歯科大学同窓会施行細則改正の提案があり協議の結果, 承認。
- (10) ホームページ上にメールボックス設置の提案があり協議, 承認。
- (11) 平成26年度事業計画案および予算案を各担当理事が取りまとめて会計に提出する提案を, 承認。基本的に, 本年の2割削減を目指すものとする。
- (12) 平成26年度第42回同窓会主催全国ゴルフ大会(案)について協議, 承認。
- (13) 地域支部連合会の活性化に向けて, 渉外部より活動提案があり今後の協議の一助とする。
- (14) 総務・厚生部厚生委員会から共済金, 共済負担金の改正指針が示され, 執行部案とすることが提案され, 協議の結果, 承認。

同窓会HPをご覧ください <http://tdc-alumni.jp/>



東日本大震災対策部会



「今年の桜は」

福島県二本松市 渡辺 英 弥
(昭和57年卒)

平成25年6月17日、診療室と我が家に足場が出現しました。患者さんからは「リホームでもするの？」と何度も聞かれ、7年前に自宅を新築、診療室も9年前に改装した事を思い出しました。あの震災では木造の自宅に無数のヒビが、大黒柱には、信じられない割れ目が。診療室も、アンカーを打っていなかったパノラマが壁に突き刺さり、縦30cm×横18cm×深さ15cmの消毒槽の薬液が空に、再植途中の小学生に逃げられたことを思い出しました。実は、家庭の諸事情から除染が先延ばしになっていましたので、いよいよと言う所でした。概ね2週間の作業日程で、外壁と雨どい、駐車場の高圧洗浄と、いわゆる雑巾がけで雨どいなどを拭く作業、それが終わると表土除去、必要な枝葉の剪定、苔などの除去等々の予定です。その削り取った表土は、自宅の庭の端に埋め、その削り取ったところに、新しい土を入れること

なっています。

この除染ですが、小学校中学校は、とにかく真剣に取り組んでいて、表土を一度ならず二度削って放射線量を下げる努力をしています。また、校舎や学校周りの木々の伐採も積極的に行い、安全に学べる環境を作っているのを目の当たりにしてきました。ほんの1例ですが原発事件当初は、運動会を体育館で行っていたのですが、昨年は午前中だけの運動会を校庭で行い、本年度は通常通りの開催をした学校がほとんどでした。

結果ですが、我が家の食卓上で



も0.5 μ sv以上だったものが、0.16 μ sv以下に、所々にあったホットスポットの値も劇的に下がり、空間線量も以前と比べるとだいぶ落ち着いては来たものの、当時から我が家だけでなく子供のいる家庭の多くは、洗濯物をいまだに室内に干している現状は変わっていません。高圧洗浄で駐車場はきれいになった半面、今まで汚れなどで目立たなかった亀裂や段差などが、思った以上に浮き彫りになり、プレートのいたずらで本当に太平洋側に引っ張られているんだと改めて実感、そう言えば、市民の方々が口々に言っていました「今年の桜は、ピンクじゃなく何か白っぽいね。」普段に戻るにはもう少し時間がかかりそうな気がする時でした。

5月16日から7月15日までの2ヶ月間、第3回目の放射線積算量調査が始まり、保育所・幼稚園児、小中学生がバッジ式線量計を



身に着けています。小さな子どもたちの健康に関しては様々な試み、支援がなされていてとても良いことで大事なことと考えます。ただ、この調査以外に大変である、と言いますのもかなり簡便になってはいますが、「毎日の行動、時間記入が…」とみんな言います。「本当に大変だよね」などと言いますと、「震災当時から、うちの家族で一番安全な場所において被ばくの少ないのは、コンクリートの壁に囲まれて仕事している、あなたですよ」と、何か微妙で藪蛇のような。平成25年7月7日の朝刊に、ヨウ素剤服用に関する記事が載っていました。事故当時、各市町村には安定ヨウ素剤が備蓄されていましたが、使われることはありませんでした。まさかの使用に対する、指示系統ができていなかったためであったと考えられるからです。県民おそらく誰もこの備蓄を知らなかったのでは。この事故は日本に前例のないものですので、きちんとデータを

蓄積してそれを基にしたエビデンスを作り、後世にきちんと伝えていただきたいと切に願っています。

福島県歯科医師会には、警察歯科医部会という組織があり身元不明の方の捜索に関して、毎年マニュアルに基づいて、警察の方とタイアップして勉強する実習があります。今回も津波で亡くなられた方々の検死に役立ったと思っています。しかしながら、実習と現場は全く違うもので、私自身も、その現場に立ち合わせて頂きましたが、その実習が即戦力にならず自衛隊の担当方々に教えていただいたことが多々ありました。一番大事なことは、自分の主観、思い込みで判断しないこと。実際カルテと照合した際、それが違っていると全く別人になってしまうことがあるからです。ただ、このような現場で思ったこと、歯科医は医師以上に重要なポストにいることを再確認する必要があるということでした。

いろいろ書かせて頂きましたが、現在は復興に向け着実に進んでいることに、間違いはありません。また、この震災を実際に経験して初めて分かること、勉強すること、この先必要なことがたくさんあります。地震大国の日本ですから、この先また大きな震災が起これると言われています。時がたつとどうしても、風化してしまう傾向にありますが、まず身近なところから、個人であったり、家庭であったり、まず小さなケアを、防災を忘れずにし続けて頂きたいと思います。でなければ、他人のことは考えられないと思うからです。

最後に、この大震災、原発事故におきましては、全国の同窓の先生方から、たくさんのご心配、支援物資、義援金を頂きました。心から御礼申し上げます。これらは、被災した方、避難した方々に、何らかの形で還元させて頂きましたことを申し添えたいと思います。



相馬にかかる橋を津波が越えてきたそうです。山肌にその痕があります。



新地町の海辺です。町が無くなった場所です。



放置されているバス、船



自宅の隅にある汚染土が埋めてあるところ。です。



「被災者ではないけれど…」

宮城県仙台市 花岡 弘二
(平成7年卒)

わたしの医院は仙台市西部の山間にある。すぐ近くにある熊ヶ根鉄橋は、高さ51mの日本一高いトレスル橋で、鉄道ファンにはたまらない場所らしい。

3月11日のその日、当医院待合室には、精神的・身体的に障害を持つ方が5名ほどとその施設支援員1名が来院していた。緊急地震速報の警告音流れ、その刹那地震響きとともに、経験したことのない揺れに襲われた。待合室では阿鼻叫喚と言えほどの悲鳴。感情をストレートに表す彼らは、恐怖や怯えの感情表現もまた、ストレート。

パニックに陥った彼らは、外へ走り出す者、固定式の椅子の下に潜ろうとする者、支援員にすがりつく者。とりあえず外に出ようとする者を制止し、全員を集め、上から押さえつけるようにして揺れが収まるのを待つ。受付けや診療室の中では動かないはずの物までその位置を動かした。たった一人の支援員が気丈にも「全員を無事に連れて帰るのがわたしの仕事ですから」と余震の中を車で帰り、改めてわが身を振り返る。

我が家は共働きで当時小学3年生の一人娘がいる。何としても帰らなければと思っていたところメールで妻と娘が無事合流したことが分かり、家路を5時間かけて

帰った。帰路の途中「あれっ？なんで嫁は家にいたのだ？今日仕事のはずだったけれど。」この時妻は妊娠3カ月、具合が悪く家で寝ていたらしい。お腹の子がおねえちゃんのために危険を知らせてくれたのよ、とにわかにか喜んでくれた。

3月の仙台はまだ肌寒く、粉雪が舞う。ガスも電気も使えない部屋は寒く、体調不良の妻は娘と早々に寝床に入る。携帯電話が頻繁にメールの着信を伝える。歯科医師会が構築した会員の安否確認メールだ。1分毎より短い間隔で無事かと100回以上聞いてくる。バッテリーをみるみる消費。結果、携帯電話の電源を切る羽目となる。平時の備えとは難しいものだと感じる。

沿岸部の悲劇は防災ラジオで知ったが、映像情報がない私の認識は、悪くても床上浸水程度の、極めて楽観的なものだった。自宅から眺めるガスタンク火災の赤い空が何日も続くなどと想像もしなかった。

親戚や友達の安否が順次わかり始め、岩手県大船渡市に住む叔母の訃報も届いた。在学中同級生数名とこの叔母の持つ別荘へ遊びに行ったことがある。もしその時世話になったと思い出した同胞は少しの時間冥福を祈ってほしい。気

さくで面倒見のよい人だった。叔母の家は沿岸部であったが、3階建ての立派な家だった。建物は残ったが、津波は2階までの全てと叔母の命をさらっていった。遺体が家にあっただけよかったとは思えない。命は確実に奪われたのだから。

2カ月後、妻の中に生まれていたもう一つの命も失った。

震災後、平時ではない産科の忙しさに妻は受診を控えていた。立ち仕事で、こんな折に休むわけにはいかないと頑張っていたが、新たなわが子の笑顔をみることは叶わなかった。

2年がたち、被災地から越してきた患者さんが時折、少しずつあの時の話を聞かせてくれる。聞くにつれ本当に大変な思いをしてきたのだな、と感じる。また、何にもなかった、被災したとはいえないという人も、必ず何かを失って、また誰かとお別れをした。

同窓の先生方には多大な支援を頂きこの場を借りて心より感謝申し上げます。もし何らかの形でこの御恩が返せるならば微力ながら献身したいと思う。

この震災で犠牲になった方に心より哀悼の意を表し、今なお苦しんでいる皆さまにお見舞い申し上げます。

保 険

事前承認ブリッジをご存知ですか

補管中の補綴物にかかわるブリッジや「ブリッジの適応症と設計」に適合しないブリッジに関して事前に承認されれば算定できる場合があります。

そのためには、地方厚生（支）局長に資料を添えて申請し、その適否の判断を仰ぐ必要があります。資料とは、保険適用の可否判定のため、申請書（理由書）とトリミングされて咬合関係の判断できる模型とX線フィルムまたはその明確に診断できる複製等をいいます。

なお、申請中は当該ブリッジ製作に着手はできません。厚生（支）局長より承認通知があった場合（通常1～2週間）のみ、保険診療の取り扱いとなります。

① 補管中の補綴物にかかわるブリッジ

クラウン・ブリッジ維持管理料算定後1年を超え2年未満に隣在歯を抜歯したブリッジ

歯冠補綴物又はブリッジを装着し補管を算定した日から起算して1年を経過した日以降2年を経過する日までの間に、外傷、腫瘍等によりやむを得ず隣在歯を抜歯し、補管中の歯牙を支台歯としてブリッジを装着する場合は申請書および模型を提出して事前承認を受けます。

※この場合、隣在歯の抜歯理由が「外傷」や「腫瘍」等の場合が対象であり、「歯周疾患」を理由に抜歯した場合は事前承認の対象になりません。

※補管中の歯牙が破折等の理由により抜歯をして新たにブリッジを作製する場合、所定点数は、装着材料以外は算定できません。義歯による補綴は算定できます。

② 歯式上問題のある場合

矯正、先天性欠如、転位等により歯式上の間隙より実態の間隙が狭いブリッジ

矯正・先天性欠如等により、第一小白歯、第二小白歯、第一大臼歯欠損のブリッジにおいて、歯式上欠損歯数は3歯であるが、間隙が1歯分程度小さく2歯分となる症例にブリッジを装着する場合も事前承認の申請が必要になります。

※申請書、模型およびX線フィルムまたはその複製の提出

③ 歯牙移動による場合

歯式上の間隙が実態と異なり歯式による取扱いでは保険給付外となるブリッジ

欠損歯を反映した歯式では保険給付外ブリッジとなるが、実際の欠損部の間隙が1歯分少ないような症例にブリッジを装着する場合。

※下顎前歯2歯欠損で歯牙移動により間隙が下顎前歯1歯分程度しかない場合。

（申請書、模型およびX線フィルムまたはその複製の提出）

④ 咬合緊密の場合

有床義歯では目的が達せられない症例

有床義歯では目的が達せられない場合、誤嚥等の事故を起こす恐れが極めて大きい場合で、ブリッジを行う以外に方法がない症例は模型とその旨を記載した申請書を提出し適否を仰ぎます。

※（申請書および模型の提出）

申請時の資料について

※X線検査は診断用と提出用をそれぞれ算定できます。この場合はレセプトの「摘要」欄に申請中であることを記載します。

※提出用の請求は、診断料を差引いた点数を算定します。

※模型製作の費用は基本診療料に含まれるために算定できません。

	デジタル加算	診断料	撮影料	フィルム料	点数
添付X線デンタル標準		0	25	3	28
添付X線デジタル標準	10	0	28	0	38
添付X線パントモ〔15cm×30cm〕		0	180	10	190
添付X線パントモ〔20.3cm×30.5cm〕		0	180	12	192
添付X線デジタルパノラマ	95	0	182	0	277

レセプト記載について

- ① 保険適用判定のためのX線フィルムの診療報酬明細の請求は全体の「その他」欄で行います。

部傷 病 位名	⑦654③ MT(Br)
そ の 他	添付X線デジタル標準 38×2
摘 要	事前承認申請中

- ② 保険適用を事前承認されたブリッジを請求するときは、その旨「摘要欄」に「事前届出済」と記載し、「承認番号」も記載します。当該Br装着月まで連月にわたり記載します。

部傷 病 位名	⑦654③ MT(Br)
摘 要	事前承認ブリッジ承認済 承認番号***

3 歯欠損 2 歯補綴の事例

※特例・事前承認を必要としないケース

1. 欠損歯はなく1歯相当の間隙がある場合でも、ブリッジを製作できます。(例：④△③ 間隙部分が犬歯形態であれば前装金属冠での請求も可能)
2. 犬歯欠損で同側の中切歯が支台として使用できない場合に、特例として第二小臼歯まで使用すれば製作可能です。(例：⑤④3② 摘要欄に「1|メタルボンド冠」等を記載のこと)
3. 側切歯と犬歯、犬歯と第一小臼歯の2歯欠損で犬歯が低位唇側転位していたため、間隙が1歯分の場合、ポンティック1歯分のブリッジとして製作できます。ポンティックの形態にかかわらずポンティックの抵抗値(F値)は、犬歯の「5」と取扱います。(例：④32① 摘要欄に「1歯分の間隙のため欠損歯数と補綴歯数が不一致」等を記載のこと)

【事前承認ブリッジ申請書記載例】

申請書については、決まった書式はありません。地区歯科医師会または所轄厚生局にお問い合わせ下さい。下記の申請書は関東信越厚生局の書式です。

【補管中にやむを得ず隣在歯を抜歯しブリッジを製作する場合】

平成 年 月 日

関東信越厚生局長 殿

地方厚生(支)局長あてになります

保険医療機関コード ※※※※※※※※
所在地 ※※※※※※※※
医療機関名 ※※※※※※※※
電話番号 ※※※※※※※※
開設者名 ※※※※ (印)

地方厚生(支)局長が適否を決するブリッジについて(理由書)

下記の患者に係るブリッジについて適否の判断をお願いいたします。

記

患者名 ※※※※※※※※ (本人・家族)
生年月日 年 月 日生
保険者名 ※※※※※※※※
保険者番号 ※※※※※※※※
被保険者番号・記号 ※※※※※※※※
担当歯科医師名 ※※※※※※※※
補綴維持管理料の算定日及び部位 年 月 日 (部位) :
抜歯をした日及び部位 年 月 日 (部位) :

基本情報を記載します

《ブリッジ申請の部位》



補管算定後1年を超え2年未満に隣在歯を抜歯し、ブリッジを設計した場合

【理由】 歩行中に転倒し、上顎左側中切歯、側切歯を強打し歯根が破折しました。保存不可能なため抜去しました。右側中切歯は、補綴維持管理期間中ではありますが、上記Brを設計しました。よろしく申し上げます。

申請理由を医学的根拠に基づき記載します。用紙が足りない時は、別紙に記載し添付して下さい。

※添付資料 模型(スタディモデル)、エックス線フィルム又はその複製

【やむを得ず「ブリッジの適応症と設計」に適合しないブリッジを製作する場合】

平成 年 月 日

関東信越厚生局長 殿

保険医療機関コード ※※※※※※※※
所在地 ※※※※※※※※
医療機関名 ※※※※※※※※
電話番号 ※※※※※※※※
開設者名 ※※※※ 印

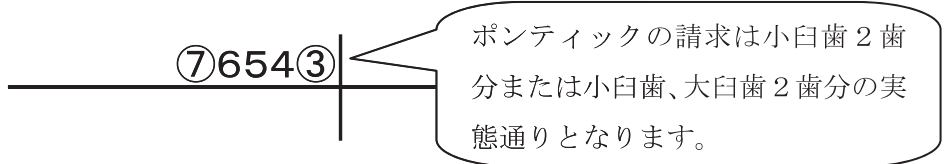
地方厚生(支)局長が適否を決するブリッジについて(理由書)

下記の患者に係るブリッジについて適否の判断をお願いいたします。

記

患者名 ※※※※※※※※ (本人・家族)
生年月日 年 月 日生
保険者名 ※※※※※※※※
保険者番号 ※※※※※※※※
被保険者番号・記号 ※※※※※※※※
担当歯科医師名 ※※※※※※※※

《ブリッジ申請の部位》



【理由】 右側第一小臼歯は、矯正治療のため抜去しており、2歯分の間隙しかありません。
実態は、7653 となります。模型を添付します。
よろしく申し上げます。

- 理由として、下記の状況を具体的に記載します。
① 矯正，先天性欠如，転位等により歯式上の間隙より実態の間隙が狭いブリッジ
② 歯式上の間隙が実態と異なり歯式による取扱いでは保険給付外となるブリッジ
③ 有床義歯では目的が達せられない症例，誤嚥等の危険性が極めて高い症例

※添付資料 模型(スタディモデル)、及びエックス線フィルム

東京歯科大学同窓会フォーラムが開催

「超高齢社会を迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト」

事業推進部シンクタンク委員会では歯科医療や生涯研修のあり方を制度面から考えております。歯科医療のパラダイムシフトとして「チェアーサイドでの口腔機能評価と機能向上を積極的に組み込むこと」を提案いたします。

我が国は世界でどの国も経験したことのないスピードで、超高齢社会を迎えました。そのような中、「8020達成者」の割合も、30%を超えるなど、歯科医療は歯の喪失防止に一定の役割を果たしてきました。一方で、後期高齢者では、歯科への受診率が低下することが指摘されています。これは、身体的、社会的理由により、歯科医院への通院が困難であることや、摂食機能低下等の理由により、義歯の使用をあきらめてしまうなどの理由によるものです。口腔は一生涯を通じて日常生活を送る上で、その機能を支える摂食は

生命維持の礎であることはもちろん、豊かな社会生活を営むために不可欠です。在宅診療等による歯科医療のさらなる近接性の確保が急務となっているだけでなく、齶蝕や歯周病の治療を中心とした医療に加えて、国民の一生涯の生活を支えるための新たな役割が求められています。とくに、摂食嚥下機能など口腔機能の重要性が再確認されている中、一般歯科診療所内で早い時期から口腔機能を評価し、低下を予防したり機能向上することが望まれています。

そこで、一般歯科診療所での摂食嚥下機能をはじめとする口腔機能低下を防ぐ取り組みから地域連携まで幅広い範囲で、国民の期待に対し、歯科医療がどのようにその責任を果たしていったらよいかを探る目的で、2月24日（日）東京都千代田区・東京歯科大学水道橋校舎において「超高齢社会を

迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト」と題して各分野の最前線でご活躍の先生方をお招きして、フォーラムを開催いたしました。

そこで、午前中は大局的なアプローチとして、大久保満男先生（日本歯科医師会・会長）による「歯科医療の新たな転換」と題した講演がなされました。大久保先生からは、歯科医療のこれからの歯科医療の方向性として国民生活の礎を支える役割の重要性についてお話いただきました。続いて、井下英二先生（滋賀県甲賀健康福祉事務所（甲賀保健所）・所長）から「地域保健医療福祉における多職種連携と歯科の役割」について講演がなされました。井下先生はご自身のこれまでの地域歯科保健活動での経験に基づいて、地域住民との連携・協働、ヘルスプロモーションの理念に基づいた地域



大久保満男先生



井下英二先生



安藤雄一先生



保健活動等を中心にお話しいただきました。そして、午前中の最後に安藤雄一先生（国立保健医療科学院・生涯健康研究部）による「我が国の歯科保健の現状と近未来」の講演が行われました。安藤先生にはこれまでご自身で解析してこられた、歯科保健データから読み取れる歯科保健の近未来の課題について、解説していただきました。

午後からは、特に、「チェアサイドでの口腔機能評価と機能向上を積極的に組み込むこと」に着目し、臨床現場での様々な取り組みについての講演がおこなわれました。まず最初に、石田 瞭先生（東京歯科大学 摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科）から「歯科医院での食生活

支援の現状と課題」として、口腔機能評価法に関する提案がなされました。続いて、糸田昌隆先生（社会医療法人 若弘会わかくさ竜間リハビリテーション病院）から「摂食・嚥下障害の評価と一般歯科診療所でできる予防からリハビリテーション」と題した講演をしていただきました。糸田先生からは、特に、日常臨床での摂食嚥下機能改善の取り組みから、摂食嚥下障害のある患者に対して、義歯の重要性について、多くの臨床症例をご紹介いただきながらお話していただきました。また、遠藤真美先生（九州歯科大学 生体機能制御学講座）から「口腔機能の低下とは一口は重宝!？」と題した講演がそれぞれ行われました。遠藤先生からは、唾液などの口腔

環境を軸に口腔機能について評価・診断や、実際の臨床現場での口腔機能低下をある患者との関わりについてのお話しをいただきました。

フォーラムの最後には6名の演者によるディスカッションの時間も設けられ、今後、どのように口腔機能を一般臨床に取り入れていくかなども踏まえて、歯科医療が国民の生活を支えるために、取り組まなければならないことについての幅広い議論がなされた。

尚、本フォーラムは、日本大学歯学部同窓会に後援いただき、会員のみならず、約200名に及ぶ多くの方にご参加者し、盛大なフォーラムとなりました。

事業推進部シンクタンク委員会
委員長 高柳篤史



石田 瞭先生



糸田昌隆先生



遠藤真美先生

卒研レポート2013

イブニングセミナー

「今日からはじめる こだわりの補綴」

～補綴物に現れる基本の重要性～

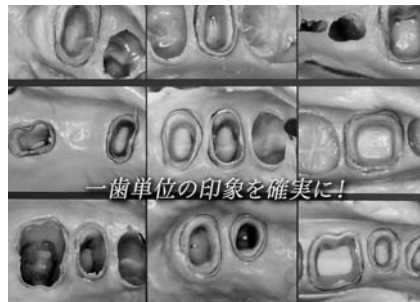
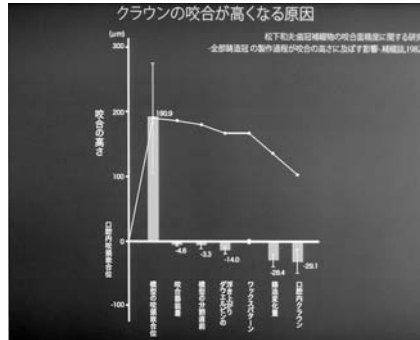
5月16日(木)東京歯科大学 TDCビル13F セミナー室にて、イブニングセミナー「今日からはじめる こだわりの補綴」～補綴物に現れる基本の重要性～が行われました。

講師の鷹岡竜一先生は、スタディグループ・火曜会、臨床歯科を語る会等に参加され、著書に「僕の開業日記」があり、現在東京都港区にて開業されています。木曜の夕方からの開催でしたが、約100名の受講者が聴講されました。



補綴の基本は一歯単位のインレー・クラウンにあり、この適合がきちんとできなければブリッジなどの大型の補綴物はできません。

クラウンのマージン部は30～50μmの正確な適合度で作られますが、咬合の高さにおいては200～300μm高いものができることが多々あります。クラウンの咬合接触関係に大きな影響を及ぼす因子は、印象採得・模型製作・咬合採得・咬合器装着までの過程にあるといわれています。その各ステップをより確実に行うことが補綴物の適合精度を上げるために重要となってきます。



- ・印象採得においては、その手法よりも歯周組織のマネージメントが重要です。
- ・模型製作では模型の変形をできるだけ少なくすること。
- ・咬合採得では、咬合紙を用いて接触点をマークしシリコン採得材を使用します。
- ・咬合調整を行う前にシリコン印

象材にて、内面適合検査を行います。

間接法で製作された補綴物は咬合調整を行わずに装着されることはほとんどありません。各ステップを適切に行い100μm以内の調整量（咬合面形態をかえることのない）で抑えることを目標としましょう。



講義後半では長期症例の紹介があり、口腔規格写真・レントゲンの重要性を感じました。歯科技工士・歯科衛生士との連携を密にし、適合精度が高く清掃性の良い補綴物を目指していきたいです。

(取材・広報部 横田東生)



卒研レポート2013

実習セミナー

「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」

第一日目



卒後30年近く経ち毎日漫然と過ごしている自分にとって、大変刺激的な一日でした。

DownsNorthwestern 分析, ポリゴン表をパソコンでわかりやすく図示して下さり, 最近の教育の素晴らしさにまず感動しました。

実習では, スライドを三箇所使って, 模型を図示する画面, 講師が説明しながらトレースしていくのを写す画面, 説明用のセファロの画面と分かれていて, 理解しやすく良かったです。

所々にシェーデルも置いて下さっていて, 実際自分がトレースしている部位を目で立体として確認できましたし, 講師の先生も受講生3~4名に一人ついて下さり指導も, 懇切丁寧です。

オリエンテーションを西井先生からうけ, トレースを2症例行い, その後は末石先生より, セ



ファロからわかる事を講義して頂きました。

トレースの原則は, 規則に従って, 必要な箇所だけ抜き出し, シンプルな一本の線で, 解剖をイメージし, 各構造物の位置関係を知ることで, 暗いところで行う事です。

セファログラムからは, 顎顔面の形態分析, 成長発育評価, 治療計画立案, 治療経過の確認, 評価, 治療結果の評価がわかります。

治療に対する反応として, ハイアングル症例は, 咬合平面, 下顎下縁平面が傾斜していて, 顔面高が大きくて, 垂直被蓋が小さく, 開咬傾向を呈し, 咬合力が弱く, 矯正治療に対して下顎の時計回り回転が起きやすく, 臼歯の近心移動も起きやすく, 顎間距離が大きく, 唇側傾斜した前歯は受け入れ



にくく, よって, 抜歯治療になりやすく, 下顎頤部の前方成長が少ないです。

一方, ローアングル症例では, 口蓋, 咬合, 下顎下縁平面が平行に近く, 過蓋咬合を呈し, 咬合力が強く, 下顎は前方成長のパターンをとり, 非抜歯症例となりやすいとの事です。

まとめとしてフェイシャルパターンによって成長の回転パターンが大きく異なり, 又, 歯の萌出方向や量も顎骨の回転に影響をうけ, 特に下顎の回転様相は個人差があり咬合状態が異なっていて, 何の影響かという点, 遺伝, 呼吸, 咬合圧, 顎関節等です。

それらについての症例スライドを交えた講義は, 実習後なので大変理解しやすく, あと二回あるセミナーがさらに楽しみになりました。(取材・広報部 志村圭子)



卒研レポート2013

実習セミナー
「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」
第二日目

平成25年7月7日(日), TDC 卒後研修セミナー2013「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」全3回シリーズの第2回目がTDC ビル13階で開催された。

前回に引き続き, 今回も母校歯科矯正学講座のスタッフによる実習セミナーで, 受講生は15名であった。

午前中は, 立木千恵先生による「セファロ分析」と題する講演で始まり, 実際の分析法通りに本日の実習の流れを詳細に解説された。

続いて実習に移り, 受講生は立木先生と西井 康先生の丁寧な説明にしたがい, セファロをトレースしたものにナジオン, セラ, オルビターレ, ポリオンなどの計測点と, フランクフルト平面, セラ-ナジオン平面などの基準面を一つ一つ記入した。ついで



分析に移り, 代表的な Downs 分析と Northwestern 分析の, それぞれの角度や距離を計測し, 分析表に数値を記入した。そしてどの項目が基準値から逸脱しているかを見やすく視覚化するため, ポリゴン表へ転記した。実習時間がたっぷり用意されていたため, 受講生は焦らずじっくりと実習することができたようだ。

昼食後, 同様に2症例目の分析を行い, 末石研二教授が実習した2症例に関してフィードバックを行った。さらに末石先生は「現在は歯科医師国家試験にもセファロ分析値を読んでその治療に相応しい矯正装置を選択する問題が出題される」と学生教育の現状も話された。

その後, 再び立木先生より「分析から症例をどのようにとらえるか」という題で本日のまとめの講



演が行われた。先生は, 目が慣れてくるとポリゴン表からある程度の症例の把握ができるようになる。分析の基本は土台となる骨格型に注目し, 次に咬合型を見極めることが重要である。一方各種分析法には長所短所があり, 分析法間で矛盾が生じたところは一つの分析値に固着せず, 分析以外の顔立ちや写真, トレースの感じなどを重視し, いろいろな要素を含めて総合的に判断することが必要である, と結ばれた。

卒研ならではの充実したセミナーであった。

(取材・広報部 渡邊宇一)



卒研レポート2013

＜特別企画＞ インプラントの極意

4日間コース（前編）

2013年6月22日(土)・23日(日)の両日、＜特別企画＞インプラントの極意がTDCビル13階にて開催されました。年間予定にはない特別企画でしたが、若手からベテランの先生まで17名の参加がありました。



近代インプラント治療の祖であるブローネマルク教授の直弟子である小宮山彌太郎先生、東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座 臨床講師の木津康弘先生を迎え、インプラント治療の基本的な知識や技術の習得について講演していただきました。



＜1日目＞

小宮山先生よりインプラント臨床総論・ドリリングの基本についての講義があり、午後からは、顎模型を用いたドリリングテクニック実習が行われました。

講義では、インプラント療法は従前の歯科治療に比べて万能なのではなく、選択肢の一つである。何よりも患者の利益を優先すること。また、あまり聞くことのない

失敗症例からブローネマルクのプロトコイルの重要性を学びました。



ドリリング実習では、刃先がぶれない様へット部を固定すること、適宜埋入方向と深度を確認しつつ、オーバーヒートに気をつけ間欠的にドリリングを行うことを体験しました。

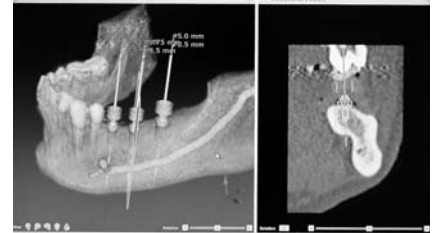


＜2日目＞

前日に引き続き、小宮山先生より補綴設計と埋入計画・インプラント手術時の注意点に関する講義をうけ、マネキンを用いた2回法「6部ブローネマルクインプラント埋入実習」をおこないました。前日の実習に比べ、より臨床にそくした経験ができました。



午後には木津先生よりガイドサージェリーとその特徴に関する講義を受けました。CT画像から埋入位置のシュミレーションを行い、作製されたテンプレートを用いてドリリングを行うコンピュータガイドッドサージェリーに将来性を感じます。



最後に小宮山・木津両先生を交えたディスカッションが行われ、受講生からも多くの質問があり大変盛り上がりしました。

後編は次号に掲載予定です。

(取材・広報部 横田東生)



母校だより

平成26年度東京歯科大学入学案内 (東京歯科大学入試要項より)

1. 入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成25年11月1日 ～ 平成25年11月5日	平成25年 11月9日	平成25年 11月12日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター
編入学試験 A	若干名				福岡会場： TKP 博多駅前シティセンター
学士等特別選抜 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎本館
一般入試 (I期)	約50名	平成25年12月17日 ～ 平成26年1月28日	平成26年 2月2日	平成26年 2月5日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎本館
大学入試センター利用 試験 (I期)	13名				大阪会場： TKP新大阪ビジネスセンター
一般入試 (II期)	約15名	平成26年2月18日 ～ 平成26年3月4日	平成26年 3月8日	平成26年 3月11日	福岡会場： TKP 博多駅前シティセンター
大学入試センター利用 試験 (II期)	5名				東京歯科大学水道橋校舎本館
編入学試験 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学試験 A・B は、2年次に編入学

2. 出願資格

推薦入学選考 (一般公募制)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任を持って推薦する者。

1. 平成25年3月高等学校卒業または平成26年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または平成26年3月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成26年3月31日までに18歳に達する者。

編入学試験 A・B, 学士等特別選抜 A・B 共通

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業または平成26年3月卒業見込の者。
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成26年3月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者。
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト [外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目を選択）]
帰国子女・留学生特別選抜	(3) 面接
一般入試（Ⅰ期）	(1) Ⅰ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から1科目を選択）
一般入試（Ⅱ期）	Ⅱ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択 (2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	(1) 平成26年度大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語（リスニングを除く）」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目 理 科 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	(2) 小論文 (3) 面接
編入学試験 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学試験 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（個人面接）

※1 一般入試（Ⅰ期、Ⅱ期）学力試験出題範囲

- 外国語 英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。
- 数 学 数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。
- 理 科 物理：物Ⅰ、物Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く。
「(3)物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
化学：化Ⅰ、化Ⅱ
生物：生Ⅰ、生Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く。
「(3)生物の集団」]

4. 学納金（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は [入試要項] をご覧下さい —

（入試要項は、大学教務課に資料請求して下さい。web サイトからも請求可能

<http://www.tdc.ac.jp/college/applicants/index.html>）

東京歯科大学学務等役職者

任命期間：平成25年6月1日～平成28年5月31日(定年退職者は当該日まで)

平成25年4月9日

※診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間：平成25年6月1日～平成26年5月31日

(敬称略・順不同)

役 職	氏 名	役 職	氏 名
<寄附行為規定役職者等>		<千葉病院>	
学 長	井出吉信	副 病 院 長	櫻井 薫
副 学 長	石井 拓男	副 病 院 長	柴原 孝彦
副 学 長	一戸 達也	副 病 院 長	末石 研二
千 葉 病 院 長	井上 孝	保 存 科 部 長	齋藤 淳
市 川 総 合 病 院 長	西田 次郎	小 児 歯 科 部 長	新谷 誠康
水 道 橋 病 院 長	矢島 安朝	口 腔 外 科 部 長	柴原 孝彦
大 学 院 歯 学 研 究 科 長	田崎 雅和	歯 科 麻 酔 科 部 長	一戸 達也
歯 科 衛 生 士 専 門 学 校 長	井上 孝	補 綴 科 部 長	佐藤 亨
		矯 正 歯 科 部 長	末石 研二
		放 射 線 科 部 長 代 行	井上 孝
図 書 館 長	松久 保隆	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 部 長	矢島 安朝
副 館 長	櫻井 薫	総 合 診 療 科 科 長	高橋 俊之
分 館 長	青柳 裕	ス ポ ー ツ 歯 科 科 長	石上 恵一
分 館 長	加藤 哲男	摂 食 ・ 嚥 下 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン ・ 科 科 長	石田 瞭
口 腔 科 学 研 究 セ ン タ ー 所 長	石原 和幸	撰 食 ・ 嚥 下 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン ・ 支 援 科 科 長	石田 瞭
副 所 長	齋藤 淳	内 科 科 長	大久保 剛一
教 養 科 目 協 議 会 会 幹 事	橋本 正次	臨 床 検 査 部 長	松坂 賢一
基 礎 教 授 連 絡 会 会 幹 事	石原 和幸	総 合 予 診 室 長	高橋 俊之
臨 床 教 授 連 絡 会 幹 事	末石 研二		
教 務 部 長	河田 英司	<市川総合病院>	
副 部 長	望月 隆二	副 病 院 長	高野 伸夫
副 部 長	片倉 仁朗	副 病 院 長	菅松 貞淳
副 部 長	山本 一	副 病 院 長	小坂 俊哉
学 生 部 長	平田 創一	副 病 院 長	濱野 孝子
副 部 長	佐藤 亨	副 病 院 長	高野 伸夫
副 部 長	新谷 誠康	企 画 ・ 調 査 部 長	高野 伸夫
副 部 長	古澤 成博	歯 科 ・ 口 腔 外 科 部 長	片倉 仁朗
副 部 長	森田 雅義	内 科 部 長	西田 次郎
副 部 長	杉原 直樹	消 化 器 内 科 部 長	西田 次郎
研 究 部 長	石原 和幸	循 環 器 内 科 部 長	大木 貴博
副 部 長	村松 敬一	神 經 内 科 部 長	野川 茂
副 部 長	阿部 伸一	呼 吸 器 内 科 部 長	寺嶋 毅
国 際 渉 外 部 長	小田 一豊	小 児 科 部 長	江口 博之
学 会 ・ 学 術 出 版 部 主 任	新谷 誠康	外 科 部 長	松井 淳一
学 会 部 主 任	石原 和幸	脳 神 經 外 科 部 長	菅 貞郎
歯 科 学 報 主 任	水口 清	心 臓 血 管 外 科 部 長	申 範
研 究 機 器 管 理 部 主 任	吉成 正雄	整 形 外 科 部 長	白石 健
環 境 安 全 管 理 部 主 任	川口 充	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 部 長	新井 健
実 験 動 物 施 設 管 理 部 主 任	田崎 雅和	産 婦 人 科 部 長	高松 潔
広 報 ・ 公 開 講 座 部 主 任	橋本 貞充	眼 科 部 長	島崎 潤也
臨 床 教 育 委 員 長	佐藤 亨	耳 鼻 咽 喉 科 部 長	中島 庸也
臨 床 研 究 委 員 長	高橋 俊之	泌 尿 器 科 部 長	丸 茂健
総 合 講 義 ・ 実 習 委 員 長	平田 創一	放 射 線 科 部 長	青柳 裕
臨 床 基 礎 実 習 室 運 営 委 員 長	齋藤 淳	皮 膚 科 部 長	高橋 慎一
健 康 管 理 セ ン タ ー 主 任	大久保 剛	形 成 外 科 部 長	田中 一郎
情 報 シ ス テ ム 管 理 委 員 長	河田 英司	麻 酔 科 部 長	小坂 俊哉
歯 科 医 学 教 育 開 発 セ ン タ ー 主 任	河田 英司	精 神 科 部 長	森本 陽子
		臨 床 検 査 科 部 長	宮内 潤
		市 川 総 合 病 院 歯 科 教 育 主 任	片倉 仁朗
		市 川 総 合 病 院 医 科 教 育 主 任	寺嶋 毅
<大 学 院 研 究 科>		角 膜 セ ン タ ー 長	篠崎 尚史
教 務 部 長	東 俊文	リ プ ロ ダ ク シ ョ ン セ ン タ ー 長	石川 博通
学 生 部 長	齋藤 淳	副 セ ン タ ー 長	吉田 丈児
		口 腔 が ん セ ン タ ー 長	高野 伸夫
移 転 部 会 統 轄 部 長	石井 拓男		
		<水道橋病院>	
		副 病 院 長	山下 秀一郎
<歯科衛生士専門学校>		副 病 院 長	高野 正行
副 校 長	松坂 賢一	総 合 歯 科 科 長	山下 秀一郎
教 務 部 長	杉山 哲也	口 腔 外 科 科 長	高野 正行
学 生 部 長	久永 竜一	矯 正 歯 科 科 長	片田 英憲
予 防 処 置 室 長	高橋 俊之	小 児 歯 科 科 長	大多 由美
教 務 主 任	白鳥 たかみ	歯 科 麻 酔 科 科 長	福田 謙一
	(教務主任の任期) (平成25年4月1日～ 平成26年3月31日)	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 科 長	関根 秀志
		障 害 者 歯 科 科 長	大多 和由美
		内 科 科 長	仁科 牧子
		眼 科 科 長	ビッセン 弘子
		水 道 橋 病 院 教 育 主 任	山下 秀一郎

父兄会だより

父兄会長就任のご挨拶



新会長 寺本 信三

本年度、第67代東京歯科大学父兄会会長をお引き受けいたしました、寺本信三と申します。小林一公前会長をはじめ、歴代会長の功績を継承し、スムーズな会運営が出来ますよう、精一杯任期を務めて参りたいと存じます。至らぬ点多々あるかと存じますが、ご支援ご指導のほど、何卒宜しくお願い致します。

父兄会の第1の設置目的は、大学と家庭との連携を密にし、在学生の修学に万全を期することです。時代の流れとともに、学生生活習慣も修学環境も様変わりして参りますが、父兄会とし

て必要な事項については、速やかに改善、改革を行い、役員一同、大学教職員の皆様と協力し合いながら活動をしてまいります。

さて、この9月より原点回帰とも言える水道橋の地に大学の拠点に移され、学生諸君は真新しい新校舎で新たな一步を踏み出します。去る7月19日には、水道橋校舎新館の竣工式が行われ、翌20日には、保護者の皆様に逸早く校舎を見学して頂きたいとの大学のご意向により、新校舎において父兄会定時総会を開催する運びとなりました。当日は大変多くの保護者の皆様にご出席いただいたうえ、全ての議案を可決することが出来ました。また、新校舎開校記念を祝し、父兄会から大学へ祝金の贈呈についても併せて議決されました。

同日夕刻からは、会場を東京ドームホテルに移し、大学から保護者をご招待いただき「竣工祝賀会」が開催され、盛況のうちに閉会することが出来ました。

さて、歯科医師国家試験におい

ては、前年度に引き続き、東京歯科大学は全国29校の歯科大学・歯学部のうち合格率トップという好成績を収めました。このことは、学生諸君の日頃からの努力と成果の賜物であることは勿論ですが、ひとえに井出吉信学長の推進力のもと、教職員の方々のきめ細やかなご指導によるものであると心より感謝しております。東京歯科大学は、創立以来120数年もの長い年月、常に日本の歯科界を牽引して参りました。学生諸君には、卒業後も東京歯科大学出身の歯科医師として誇りと自身を持ち、社会に貢献していただきたいと願っております。どうぞ、若き歯科医師のためにも、同窓会の皆様のお力添えを宜しくお願いいたします。

最後になりますが、同窓会の皆様のご健勝と更なるご活躍を願います。父兄会会長の挨拶とさせていただきます。

今後とも、引き続き父兄会へのご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

父兄会会長退任のご挨拶



前会長 小林 一 公

この度、平成25年3月31日、任期満了に伴い、父兄会会長の職を退任いたしました。

思い返しますと、長いようで短い一年間でしたが、同窓会の皆様のお力添えをいただきまして、平成24年度父兄会事業を無事に終えることができました。至らぬ点を

お詫びし、皆様のお支えに心より感謝申し上げます。

今回卒業の118期生は、昨年に続き、大変優秀な国家試験合格実績を収め、研修医として、また、新入同窓会員として、活躍の場を広げつつあります。本学が輝かしい実績を誇ることができますのも、まさに本学の質の高い教育と同窓会の皆様のこれまでのご尽力の賜物でございます。歯科界にとって困難な社会情勢ではあります。本学の卒業生ゆえ、建学の精神「歯科医師たる前に人間たれ」を忘れることなく、高い志を持ち、歯科医療の発展に力を尽くし、心を尽くして社会貢献のできる人間、歯科医師に成長してほしいと切に願っております。皆様に

は、118期生の成長を共に見守り、サポートしていただきましたら、幸いです。

平成25年度の新会長にご就任されました、寺本信三会長は、温厚でいつも細やかな配慮をされ、周りからの信頼もとても厚い方です。

今後の父兄会の活動・運営が充実したものになりますよう、より一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。また、記念すべき「水道橋回帰」の本年が、さらなる飛躍を遂げゆく始まりの年となりますよう、そして、会員の皆様のご健康を祈念し、会長退任のご挨拶とさせていただきます。

平成25年度		東京歯科大学父兄会役員名簿	
会長	寺本 信三	常務理事(奨学)	石 和久
副会長	小山 亨	常務理事(傷害)	石 井俊昭
〃	齋藤 正	〃	松崎 英雄
〃	川崎 輝子	常務理事(広報)	飯島 俊一
〃	橋本 東児	〃	小林 容子
常務理事(庶務)	荻原 俊美	理 事	原 島 晃
〃	福田 紳一	〃	丹 沢 朝彦
常務理事(会計)	高崎 一郎	〃	村 上 雅一
〃	中川 雅晴	〃	瀧 上 恵美子
		〃	藤 関 雅嗣
		〃	清 水 泰
		監 事	山 口 和彦
			阿 部 真 理
			伴 野 和 夫
			鈴 木 千 枝 子
			黒 河 宏 之
			鈴 木 幸 一
			森 正 浩
			山 田 由 美 子
			安 藤 雄 一
			鳩 貝 尚 志
			小 林 一 公

支部のうごき

東北地域支部連合会

第50回総会および学術講演会

平成25年6月22日(土)午後3時から山形市の山形グランドホテルにおいて、山形県の幹事で開催された。午後1時からの役員協議会では、総会の議案について審議のうえ了承された。総会では齋藤利明会長の挨拶の後、来賓挨拶として矢崎秀昭同窓会会長から血脇ホール建設への寄付、参議院選挙での選挙協力の依頼があった。次いで井出吉信学長から大学の現況、国家試験の合格率、水道橋新校舎への移転などについて詳しくお話しいただいた。そして、白井文規同窓会常任理事から同窓会本

部会務報告が詳細になされた後、参加者全員で3名の逝去会員への黙祷を行った。報告として役員協議会報告及び新入会員報告が行われ、議事へと移った。平成24年度事業報告及び決算、平成25年度事業計画及び予算はすべて可決承認された。また、本部を通じて地域支部連合会へ送られた義援金の残金の取り扱いについて、現在でも復旧が遅れている福島県へすべてお渡しすることが承認された。その他、次期開催について当番の秋田県から、平成26年6月21日(土)秋田キャッスルホテル、22日(日)秋田カントリークラブで開催予定

とのお話があった。続いて歯周病学講座の齋藤 淳教授(平成元年ご卒業)をお迎えして、「全身の健康を目指した歯周治療」と題して学術講演会を開催した。ご講演では、歯周病原菌のバイオフィルム、全身疾患は炎症を通して関連していること、QOLに配慮した治療が必要なことなど、歯切れの良い話し方で中身の濃い話を大変分かりやすくお話しいただいた。学術講演会の後、集合写真撮影、懇親会へと席を移した。翌23日(日)には蔵王カントリークラブにおいてゴルフ大会が開催された。(山形県 浅野 智 記)



近畿地域支部連合会

ゴルフコンペ

平成25年5月12日(日)、滋賀県にある朝日野カントリー倶楽部にて近畿連合同窓会のゴルフコンペが開催されました。前日からコース近くのホテルに宿泊した先生は夜に集合し、滋賀の富山先生の計らいにより、古民家を改装した大変趣きのある創作料理のレストランですばらしい夕飯をいただくことができました。数十年という長い付き合いの先生でも、初めて顔を合わせた先生でも、皆で気さくにお話ができるのが本校の特徴だと感じたひとときでした。

コンペの前日は雨でしたが、当日は快晴で暑くもなく寒くもなく、スコアの悪さを天候のせいにはできないコンディションでした。非常によく整備されたコースに、まだ慣れない様子で鳴く蝉の音が響いていたのが印象的でした。優勝は富山佳寿人先生で、アウト44、イン43のトータル87、

HDCP14.4、ネット72.6でした。ベストグロスは龍山政弘先生で、アウト42、イン41のトータル83でした。

近畿では、このように年に一度近畿地区の先生が集まりコンペを開催しております。しかしながら今年も12人と、参加者が少ないのが現状です。来年は更に多くの先生方と一緒にプレイできることを楽しみにしていますので、是非ご検討ください。



今回の結果は以下の通りです。参加していただいた先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

(大阪府支部広報・高木祥広 記)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
1	富山佳寿人	44	43	87	14.4	72.6 (滋賀)
2	宗本 匡由	42	43	85	12.0	73.0 (兵庫)
3	龍山 政弘	42	41	83	9.6	73.4 (滋賀)
4	對馬 具海	45	49	94	20.4	73.6 (京都)
5	西村 亮介	49	43	92	15.6	76.4 (兵庫)
6	中村 忠	48	47	95	18.0	77.0 (滋賀)
7	永田 賢司	49	58	107	30.0	77.0 (京都)
8	崎山 裕行	50	47	97	19.2	77.8 (兵庫)
9	山本 勇一	45	48	93	13.2	79.8 (大阪)
10	高木 祥広	58	57	115	33.6	81.4 (大阪)
11	松田 康男	61	62	123	36.0	87.0 (滋賀)
12	戸崎 秀樹	79	64	143	36.0	107.0 (滋賀)



四国地域支部連合会

平成25年度四国地域支部連合同窓会

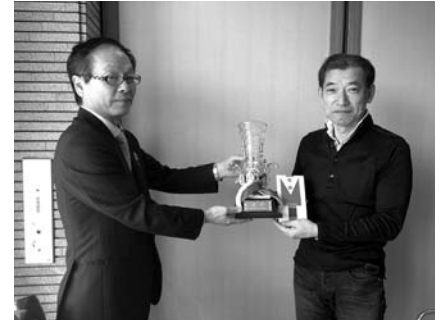
平成25年5月11日(土)、午後2時30分より四国地域支部連合同窓会総会・学術講演会・懇親会が香川県高松市にある「JR ホテルクレメント高松」にて開催されました。ご来賓として矢崎秀昭同窓会会長、佐瀬俊之同窓会副会長、母校より井出吉信学長、特別講演は宮城県から同窓の鈴木一雄先生をお迎えし、四国4県から51名の同窓が参加されました。

総会は校歌斉唱から開会し、物故者への黙祷、開催県支部長である藤本 清香川県支部長の挨拶の後、来賓挨拶として矢崎秀昭同窓会会長が同窓会の現況を報告するとともに新血協記念ホール建設のための寄付金についての説明やお願いがありました。つづいて四国地域支部連合会久保田 晃会長の挨拶の後、井出吉信学長より大学移転と新血協記念ホールの建設状況、水道橋における今後の展開について、今年行われた歯科医師国

家試験および大学入試結果についてなど、大学の現状について解り易く説明をいただきました。最後に、次期開催県支部長である横山洋行愛媛県支部長からの挨拶をいただきまして閉会となりました。

学術講演は宮城県気仙沼市で開業されている昭和48年卒の鈴木一雄先生に『私の東日本大震災』という演題にてご講演いただきました。気仙沼市は地震と津波だけでなく火災による被害も甚大であり、震災死亡者・行方不明者を合わせると約1,300名にもなりました。先生の診療所も2階まで津波が押し寄せ、医院屋上から先生が撮影されたと思われる動画も視聴いたしました。未曾有の大災害を体験され、歯科医師として検死活動にも従事し、歯科医院再開等のご経験を通じての先生の言葉「転ばぬ先の杖」は、南海トラフ地震に不安を持つ四国地域の会員に対して、災害への備えと心構えを改めて与えるものとなりました。

記念写真撮影の後、午後6時30



分よりご来賓として豊嶋健治香川県歯科医師会会長が加わり、懇親会が行われました。地元瀬戸内の旬の食材を使った料理に舌鼓を打ちながら、酔いも最高潮に達したところで女性ユニットによる歌謡ショーが宴に華を添えました。会場各所にて1年ぶりの再会に親睦を深めながら、楽しい時間は早く感じるもので名残惜しいなか終宴となりました。二次会は同ホテル最上階にある高松の夜景が美しい「バー アストロ」にて、翌日の親善ゴルフ大会は「坂出カントリークラブ」にて開催され(優勝:愛媛県支部松木建二先生)、無事すべての日程を終了いたしました。(高橋 巧 記)



秋 田 県 支 部

平成24年度定時総会並びに学術研修会開催

平成25年5月18日(土)午後2時より秋田キャッスルホテル弥生の中に於いて秋田県支部会員数49名中25名の出席により平成24年度定時総会が開催された。同窓会本部より矢崎秀昭会長、高橋文明東北地域選出理事、並びに本大学より千葉病院法歯学講座 水口 清主任教授をご来賓として迎撃を賜った。

定時総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞で始まり、次年度で2期4年目を迎える藤原元幸支部長が挨拶に登壇され、平成25年度春の叙勲(皇居にて拝謁/5月10日)に於いて、勲等「旭日双光章」を授与された山内 静先生(昭和33年卒業/六喜会)へ大喝采の中、花束が贈呈された。次に同窓会本部役員ご挨拶として矢崎秀昭会長が現在の同窓会体制における総括説明と本学水道橋校舎への移転計

画の詳細なる現状報告を行った。そして高橋文明東北地域選出理事からは今後の同窓会本部改革案とその要旨並びに東北地域支部連合会改革案が的確に解説された。また本大学内近況報告として、水口清教授からは今年も全国の国公立・私立中第1位の国家試験合格率2連覇達成の驍驍報告を拝聴した。さらに水道橋近隣地区への順調な7月全体移転が進められ、更なる高度医療と教育・研究の環境整備が成される事を詳細報告した。

会務一般並びに監査報告と全認定議案も満場一致で可決承認された。定時総会終了後、水口 清教授による「法歯学教室の社会活動の話題から」の演題で学術研修会が行われ、臨床に直結した基礎的知識と最新の研究概要、並びに来年度から出題予定の予想国家試験難問題に対する基準的解釈と詳細な解説を拝聴した。

秋田県支部役員名簿

支 部 長	藤原 元幸(八輪会)
副支部長	寺岡 洋一(七十九期会)
	岡田 寛(八輪会)
	嶋田 均一(正和会)
	高橋 文明(八十二期会)
	佐藤 裕子(八実会)
	山田耕一郎(弥生会)
理事 (総務)	鈴木 文登(水公会)
(庶務)	五味 明雄(新葉会)
(学術)	五味 明雄()
(会計)	駒橋 純(爽翔会)
(無任)	武田 勤(弥生会)
	清水 隆夫(爽翔会)
	金子 恵三(爽翔会)
	工藤 卓奥(爽翔会)
	山本 高敬(百樹会)
監 事	有明 一(志学会)
	奈良 周彦(水公会)
顧 問	駒橋 典夫(いそむ会)
	太田 晃(五期会)
	山内 静(六喜会)
	高橋 昭一(歯士会)

記念写真撮影後、高橋昭一前支部長の祝杯献上により同窓会懇親会が開宴し、終始懇談の華艶が舞った。(五味明雄 記)



福島県支部

福島県支部総会

5月25日(土)午後1時30分より会津若松ワシントンホテル2階会議室において、平成25年度福島県支部総会が開催された。佐藤 滋専務理事の司会進行。佐藤正矢支部長の挨拶に続き、新入会した西川友一朗会員が紹介された。伊達市でご開業の西川祐介会員の長男で現在は一緒に診療なさっている。さらに厚生労働大臣表彰を受賞された椎木一雄会員、赤塚公寿会員へは祝いと支部からの記念品が贈られた。

議事では議長に喜多方市の小汲喜郎会員が選出され進行を務めた。平成24年度の会員調べおよび会務について佐藤専務より報告があり、会計決算の報告が赤塚理事

よりあった。また、評議会ならびに東北地域支部連合会、支部長幹事会等の報告が佐藤支部長からあり全て承認された。さらに平成25年度事業計画・予算について可決確定した。同窓会本部の佐瀬俊之副会長より同窓会活動について説明があり、井出吉信学長からは本校の水道橋移転や国家試験等の現況が説明された。

総会終了後に学術講演が開催された。オーラルメディシン・口腔外科学講座の片倉 朗教授より「日常臨床に必要な口腔粘膜疾患の知識～口腔がんとの鑑別も視野に入れて～」の演題で講演があった。早期癌の鑑別など、質疑が相次ぎ充実した講演会であった。

懇親会では支部長から歓迎の言

葉が会津弁であり、終始和やかに行われた。歯科医師とその仲間によるナイトジャズミュージック。ものまね芸人のロボコップ。そして最後には校歌を高らかに斉唱した。一同は愉快的ひとときを過ごした。

参加者44名

福島県支部同窓会ゴルフコンペ

翌日26日(日)会津磐梯カントリークラブにおいて、ゴルフコンペが開催された。43-37のスコアで浜通り秋元英典会員がベスグロに輝き会津産こしひかりを持ち帰った。参加者13名。微風にて空高く。(北見知広 記)



川崎支部

平成24年度総会・講演会

平成24年12月1日(土)、川崎水橋会定時総会、講演会が芝浦の「牡丹」において開催されました。来賓として、杉山紀子神奈川県支部同窓会長をお迎えして、講演会は、全国的に著名な経済活性化研究所代表、山崎きよし氏より、「人生100年、生き活き」というタイトルでご講演いただきました。

平尾専務理事の司会進行のもと、古賀会長挨拶、議長には、中島善和先生を選出し、24年度会務報告、決算報告、会計監査、25年度事業計画、予算案が報告され、承認をいただきました。その後、今年の参院選挙に神奈川県から立候補される島村 大先生より会員に対してのご挨拶とご協力のお話についてのお話がありました。

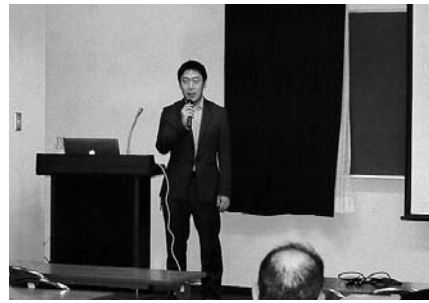
その後、引き続いて行われた講演会は、笑顔で問いかける人生アドバイザーの肩書きを持つ山崎氏によるもので、都市銀行のベテラン支店長として、5店舗を歴任。その間、業績不振店を連続表彰される優良店に復活させたエピソードなどをご披露していただき、「本気でやればかならずできるよ、目標必達」と迫った、ユーモ



アにあふれ、率直にわかりやすい話し方に、私達のような医院のリーダーも明るく大きく考えて、本気でやればたいていなことができるという前向きな内容として会員達も感銘を受けた様子でありました。

その後、懇親会の会場に場所を移して敬老敬祝会員への表彰等参加者全員が和気あいあいと歓談し、大変有意義なひと時を過ごすことができました。

(中田伸一 記)



平成25年度水橋会学術講演会

平成25年6月22日(土)、平成25年度川崎水橋会学術講演会が、中原歯科保健センターにて開催されました。

講師は、平成5年卒、有床義歯補綴学の石崎 憲先生で、「総義歯の難症例への対応」というテーマをメインにお話していただきました。まずは、今後の補綴処置の需要予測ということで、80歳代の約半数が無歯顎者であるという歯科疾患実態調査のデータをもとに、必要とされる義歯数は今後20年間で1.5倍に増加するという予測を提示されました。

そして、難症例に対しての具体的な対策方法として、特に印象採得の部位別の形態を解説いただき、それぞれについての設定の決め方をわかりやすい画像を交えながら、解説していただきました。以後の処置については、時間の関係で詳しく聞くことはできませんでしたが、最後に石崎先生が最近

立ち上げられた顎顔面補綴治療の紹介ということで、顎義歯の症例を見せていただき、専門講座ならではの治療方法の数々に出席者も感銘を受けている様子でした。元々のご出身が川崎という事で、お互いに親近感を持った良い講演会を開催することができました。

最後に場所を移しての懇親会が古賀会長の挨拶ではじまり、講師の石崎先生とともに和気あいあいたした会が催され、時間がたつのを忘れて、補綴についての白熱した議論が繰り広げられました。

(中田伸一 記)



写真が同窓会ホームページ<<<http://www.tdc-alumni.jp>>>に掲載されています。

大分県支部

平成24年度総会・懇親会

4月27日(土)午後3時30分より大分オアシスタワーホテルにて平成24年度・大分県支部「神潮会」の総会・学術講演会が同窓の先生方17名の出席を得て開催されました。

まず、神崎康司副支部長の開会の辞に続き、亡くなられた1名の先生に対し全員で黙祷を捧げました。

吉武 勝支部長の挨拶・会務報告の後、大塚 亨監事より監査報告がありました。その後総会の協議事項についての審議に入り、すべての案件が了承され総会を終了

しました。

続いて同窓会本部よりお越しいただいた、宮地建夫先生に「欠損歯列のリスクと欠損補綴のリスク」というタイトルで講演をしていただきました。

宮地先生が考案された宮地の咬合三角や1942年に考案されたCummerの分類、臼歯部の咬合支持数を直接カウントすることなど、診断・治療方針の決定をするための様々な要件について、先生ご自身の症例で解説をしていただきました。

どの症例も長期にわたる経過をおっており、同じような症例でも

違ったアプローチを行っているものなど実際の臨床例で大変わかりやすく講演していただき、会員の先生方にも大変好評でした。

記念撮影の後、場所を都町にあります「ふく亭本店」に移し懇親会を行いました。神崎副支部長の乾杯の音頭で始まった懇親会はすぐに和気あいあいとした雰囲気となり今年度新規入会した2名の先生も先輩方に飲ませていただき楽しい時間を過ごせたようでした。

その後2次会にも十数名の先生方が参加され、今年の総会も無事終わることができました。

(谷口之規 記)



クラス会だより

五十鈴会

昭和25年卒

五十鈴会の皆様、如何お過ごしでしょうか。

昨年は川上正義君、今年に入り堀内 實君と五十鈴会出席の常連が相次いで亡くなられ、又、本会会計担当として、積み立て会費の会員への返還に盡力された中尾俊郎君は病氣療養中です。歳をとれば致し方ないですが、生きていけるうちは元気で楽しく過ごしたいものです。

報告が遅くなりましたが、昨年11月に箱根「ホテルはつはな」で総会を致しました。いろいろな話題で賑わいましたが、総会開催について以下になりました。

今回の総会で、旅行を兼ねた総会は終りとすることに致しました。それ故、今回が最後の五十鈴会の旅行になりました。

その最後となる今回の旅行では、まずはご存じ、オモチャコレ

クションの北原ミュージアム、翌日はタクシーで芦ノ湖はじめ箱根の山、観光名所を巡りました。途中、富士山も、我々五十鈴会62年、最後の旅行会を祝福してくれるように、素晴らしい姿を見せてくれました(写真、左から大山夫人、佐藤(泰)、伊藤、望月、大山、木村、村上、田代夫人、田代、齋藤)。

さて、今年、そして、これからですが、大山萬夫会長の下で五十鈴会は継続していきます。ただ、今まで行なっていた、2月の東京五十鈴会新年会、5月の東京五十鈴会総会を今回は中止しました。そして、全国五十鈴会総会を9月から10月頃、東京で行うことに致したいと思います。日時、会場などは決まり次第ご連絡致します。

又、ご連絡の時、出席の有無にかかわらず、各自の近況をお知らせ頂き、これを纏めて、五十鈴会

会報、「メール五十鈴会」として会員にお送りし、これを毎年続けて行きたいと思っておりますので、その節は是非とも近況のお書き添え、よろしくお願い致します。

何時までもお元気で。

(齋藤季夫 記)

平成25年6月10日

五十鈴会

会長 大山萬夫

幹事 中尾俊郎、村上守正、

齋藤季夫

監事 早河 淳

追記

血脇記念ホール寄付にご協力下さい。

我々の五十鈴会はクラス別寄付金額で、トップです。

会員諸氏には、口数にこだわらず、1万、2万でも母校の発展にご協力下さいますよう、よろしくお願い致します(良き思い出のためにも)。



第62回 五十鈴会 於 箱根

平成24年11月8日

福 祉 会

昭和44年卒

平成25年5月18日(土)杜の都仙台に於いて、福社会同級会を開催しました。今回の同級会は復興支援と題し、地元仙台の千葉正胤君を幹事長とし東北6県の全同級生が幹事と成り執り行いました。

当日は仙台の青葉祭に合せ、晴天にも恵まれ、青葉祭を見学し、目にも清々しい街路樹の街並み、青葉山、瑞鳳殿等を逍遥徘徊し、積年に亘り積もりに積もった心の垢、俗塵を浄化し(…と成ったかどうかは不明)全国46名の参加を得ての心和むクラス会でした。

総会では、23名もの同級生が鬼籍に入られた事が報告され、一同在りし日の思い出を胸に黙祷を捧げ、ご冥福を祈りました。クラス会本部幹事の席田克巨君の報告に続き、同窓会本部より現副会長の浮地文夫君が出席され、本部より

のご報告を戴きましたが其の中で血脇記念ホール建設の為の寄付金の集りが今ひとつ思わしく無く、一層のご尽力を賜りたい、との事でした。副会長としての旧友の心情察するに余り有り、福社会同級生一同の尚、一層のご協力をお願い致します。

総会の後の懇親会、二次会、三次会と、仙台の繁華街、国分町にて行いましたが、一同卒業以来の時の流れを感じず、莫逆の友、小魚の交わり宜しく、50年前の市川菅野での進学課程、水道橋での思い出等に会話が弾み、和気藹々、青春時代に立ち返り、暫し、浮世の憂さを忘れ、没我、無心の境地にて会話に、酒に、歌にと一刻値千金の一夜を過ごしました。本部同窓会の目的は複雑、多岐、多様で有ると思いますが同級会の目的

は、「同気相求む」すなわち、気の合った者同士自然に集まり、肝胆相照らしての共有する思い出話、情報交換等々、そして、旧友の喜びを共に喜び、悲しみを共に悲しむ。其の事に尽きると考えております。其の事が各人の今後の生活に如何なる影響を与えるかは各人、各人の心の持ち様で有る、と考えます。

今回、残念ながら出席出来なかった友人の情報を得ると、老々介護、体調不良等、各人、各様です。

次回の福祉会は、現時点での予定は、古希の祝いを兼ねて東京で行う予定です。

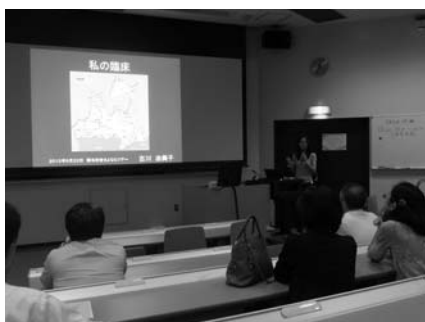
福祉会の同級生諸君！いずれ又お会いしましょう。

(安齋 勲 記)



新 葉 会

昭和63年卒



平成25年6月22日(土)稲毛キャンパスにて新葉会が開催されました。大学の水道橋への移転に伴い、稲毛の校舎を見学できる最後の機会になることから「稲毛さよならツアー」と銘打って学内や近隣の施設等思い出の場所をめぐる企画で行われました。我々は千葉一期生であり稲毛は愛着のある場所であることから立った企画です。それ故移転は寂しい限りですがこれも時代の流れ、これからは

水道橋で輝かしい歴史を刻んでくれることを期待します。

さて当日の参加者は30名弱とやや寂しい会となりましたが、第2教室に集合し開会。まずは1月に急逝した宇野澤秀樹君のご冥福を祈り黙祷。ここ数年は毎年同期の訃報が届いており、何ともやるせないのと同時にそんな歳になったのかと改めて感じ入りました。

続いて学内の見学。図書館を皮切りに、教養棟や基礎実習室等を巡りました。学生数の削減から多少の様相替えはありましたが、昔と変わらぬ懐かしい光景に記憶も蘇りノスタルジックな気分。最後に口腔超微構造学の山本君の教授室を表敬訪問して見学を終りました。

見学の後は第2教室に戻り総会と記念講演。はじめに「あの頃私たちは若かった!」と題し渡邊宇一君が卒業アルバム用に撮影し使われなかった写真を紹介。隔世の感のある写真に歓声が上がりました。次は「これからの東京歯科大学」と題して山本教授の報告。新たな東歯の姿にちょっと複雑な



気分。最後に古川由美子さんが「私の臨床」の演題で講演を行ってくださいました。

懇親会は学生時代に思いを馳せて稲毛駅前の居酒屋で開催。ここから何人かの同期が合流し昔話に花を咲かせました。また新葉会は比較的短いクールで開催していることから、来年も小規模でも開催しようとの声上がり、同期が多い長野県で開催することとなりました。詳細は未定ですが、首都圏からアクセスの容易な軽井沢か同期の集中する上田市界限で開催したいと考えております。追々アナウンスしていきますのでご参加のほどお願いいたします。

以上報告と来年の宣伝まで。

(下村定資・仁実 記)



粹 翔 会

平成20年卒

活動報告

去る、7月6日（土）ホテルニューオータニにて、私たち平成20年卒113期クラス会が卒業後初めて開催されました。当日は、大学から恩師の、佐藤・柴原両教授と学年副主任であった石崎先生、野村先生、大久保先生、同窓会本部からは矢崎会長をお招きし、同期36名の参加を得て和やかな会となりました。

開会に先立ち、先日他界された鴨居智子さんへの黙とうの後、矢崎会長よりご挨拶をいただきました。ご挨拶の中で、同窓会本部では若手同窓への支援を主眼に事業を行っており、今回のクラス会開催への参加費援助もその一環であり、これからますます活躍される113期生が、卒後研修セミナーなど同窓会に積極的に参加することを期待している、とのお話がありました。

乾杯後、久しぶりに会う恩師、

仲間達と旧交を温め、歯科臨床の話題から、将来的なことまで時間のたつのも忘れ語り合いました。卒後6年目を迎え、大学病院に関連病院・勤務医に実家・分院長など、様々な立場で働いており、話を聞いていて自分自身もとても刺激を受けました。

途中、学年代表の内山 宙君から113期の慶弔規定、今後の活動予定について、報告と提案がありました。また、同窓会本部若手ネットワーク委員として、私儀荒木より、同窓会の活動内容や会費納入の現状、卒後研修セミナーやメールボックスの説明を行い、同窓会活動に対して若手の積極的な参加協力を改めてお願いしました。



今回は、幹事として不慣れな点もあり、やや少ない参加人数でしたが、これを機会に定期的に開催していくことになりました。次回は、より多くの皆さんと会える同期会を開催したいと思います。

最後に、ご支援いただいた同窓会本部、ご参加いただいた恩師の先生方、同期の皆様に感謝いたします。（荒木優介 記）



クラス会開催日程

八	紫	会 (昭和35年卒)	と き	平成25年10月12日(土)～14日(月・祭)
			と ころ	浄土ヶ浜パークホテル・ホテル志戸平
12	期	会 (昭和39年卒)	と き	平成25年10月25日(金)～27日(日)
			と ころ	お台場 ホテルグランパシフィック
踏	志	会 (昭和41年卒)	と き	平成25年10月19日(土)～20日(日)
			と ころ	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
シ	チ	ヤ 会 (昭和48年卒)	と き	平成25年 9 月 7 日(土)
			と ころ	東京 帝国ホテル
八	実	会 (昭和53年卒)	と き	平成25年10月26日(土)
			と ころ	東京ドームホテル
翔	蜻	会 (昭和55年卒)	と き	平成25年11月 3 日(日)
			と ころ	飯田橋 ホテルメトロポリタンエドモント

「祝いの詩」(投稿)

片倉 恵男 (昭和39年卒)

片倉恵男 (かたくらしげお) 先生から東京歯科大学 本部・学舎水道橋移転竣工記念といたしまして「祝いの詩」のご投稿がありましたのでご紹介させていただきます。

先生は平成20年から平成23年まで大山執行部の副会長を務められ前大山会長を支え活躍されました。また母校創立120周年記念の時も祝いの詩を作詞されご投稿していただきました。とても母校思いの強い先生で我々も見習うべきところであると思います。また史記について造詣が深く平成22年11月評議員会にても『琴柱に膠して瑟を鼓す』と壇上にて示されました。常に臨機応変に対応ができなければならぬという意味だそうです。先生のお人柄については会報誌2012年8月号の会員往来にてもご紹介しています。ぜひもう一度お読みいただければと思います。

東京歯科大学 本部・学舎水道橋移転竣工記念

— 祝いの詩 —

新たな門出を祝おうよ

作詞 片倉恵男(昭39年卒)

一 水道橋駅降り立てば

白山通りに耀ける

TDCビル本館は

歯学の殿堂 我らが東歯

建学の理念永久に

不朽の伝統揺るぎなし

創始の苦節讃えつつ

新たな門出を祝おうよ

二 変らぬ賑わい三崎町

面影偲ぶ街模様

血脇ホールがシンボルの

歯学の殿堂 我らが東歯

先師の念願成就して

歴史の故郷に華開く

高雅学風矜持して

新たな門出を謳歌おうよ

三 皂角坂より見晴らせば

蒼穹広く街並遠く

青雲遙かに駿河台

歯学の殿堂 我らが東歯

窮理の思考深くして

行く手を阻むものはなし

進取の気概弥高く

新たな門出を拓こうよ



皂角坂校舎(駿河台)からの眺望(東京ドーム方向を望む)



(三崎町)新館内の血脇記念ホール(完成予想図)



本館(病院棟)正面と右手は病院入り口

OB会・グループ・サークルだより

新聞部黄金期 OB 会開く

青春とは人生のある時期を言うのではない。心のあり様で決まるのだ…。マッカーサー元帥が愛したというサミエルウルマンの詩である。

この青春時代を再現するため約50年振り新聞部黄金期 OB 会が4月20日水道橋グランドホテルで開かれた。

あとで触れるがこの時代の新聞部は昭和35年から38年卒業の4学年で当時の学生活動に大きな成果を残した時期で新聞部史上まさに黄金期といえよう。会場一番乗りはお孫さんが母校在学中で歯科医5代目を目指しているという鈴木英生（浜松市）、次に新聞部の指揮官で情報提供、問題提起、学生活動の民主化を唱える兵庫県支部同窓会の大御所吉田朔也（神戸市）、そして元松本歯科大学教授で現在悠々自適の生活をしている近藤 武（塩尻市）、続いて越中富山にその名を残す同人雑誌「裸人」を主宰し、新聞部の紅一点瑋子夫人とペアで参加した金山嘉城（高岡市）、そして最後は学生会の初代委員長で歯科医学史に情熱を燃やす矢内 融（前橋市）、この会の世話役をつとめる安藤三男（練馬区）の7名が出席した。

模擬編集会議は現在日本の政治経済はもとより日本の歯科医療問題、母校の水道橋移転そして日本歯科医師会及び東歯同窓会の厚生官僚を絡んだ贈収賄事件の結末、

現在の保険制度に埋没される歯科の補綴、医学の中の歯学の一元論と二元論、課題は尽きることなく展開された。

昭和35年この時期は安保闘争の真只中、東京歯科大学新聞に「東歯の発展を阻むもの」を論説に掲げ、家族主義への反発、学友会から学生会へ、そして大学任命の総代制度の廃止、そして何より圧巻なのは昭和34年に福島県飯館村で行われた無歯科医村診療、これがアサヒグラフや朝日新聞の1頁全面を占め、全国に堂々と報じられた。その後も茨城県水府村で2年間行われ、無歯科医村の口腔状態の惨状を調査した。この3年間に亘る学生代表は吉田、金山、高見沢（旧姓林 達夫、故人）でいずれも我が新聞部の部員であり新聞部が中心にこの事業が行われた。

昭和34年、奥村鶴吉元学長がご逝去の際はタブロイド版4頁に故

人を偲ぶ教授座談会を特集した臨時号を徹夜で編集し、大学葬に間に合わせた功績も大きい。また、大学創立70周年（昭和35年）には4頁に亘る特集号を発行し、これが契機で大学が創立70周年記念誌を発行する事になり、その編集委員に学生代表として、矢内、安藤が参画し歯科学報創刊号から全号にわたり、学生に関する記事を調べて20頁におよぶ学生会の歴史を掲載した。この旨、福島学長の巻頭言に明記されている。新聞部の活躍には枚挙に暇がない。その後、新聞部は廃部となったがこの時期は新聞部の黄金期と言っても過言ではない。50年を経た今日でも当時の学生時代の情熱は衰えることなくここに立派に母校と共にこの水道橋に甦った。

（文中敬称略）

（昭和37年卒 安藤三男 記）



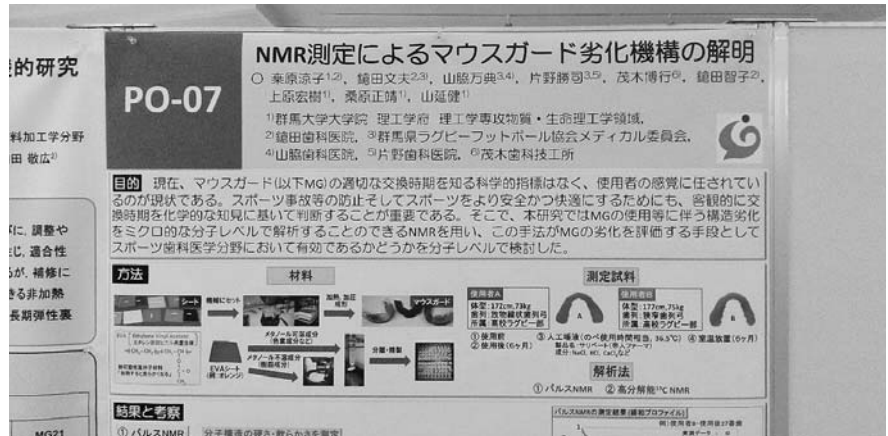
すいどうばし

群馬大学理工学研究院と東京歯科大学スポーツ歯学研究室 の共同研究が始まる

片野 勝 司 (平成元年卒)

山脇万典(S56年卒)、鎗田文夫(S60年卒)、片野勝司(H元年卒)は、これまで群馬県ラグビーフットボール協会のメディカル委員会のメンバーとして、群馬大学の理工学研究院(山延・上原研究室)の先生方と、マウスガードの素材の劣化について研究をしてきましたが、更なる進展を求め、本年度から、本学スポーツ歯学研究室(石上恵一教授・武田友孝准教授)との、教室間の共同研究の形式に発展しました。その記事が、地元の上毛新聞(県全域)と桐生タイムス(県東部)に記載されました。

いままでの歯科材料は、既成の工業製品を混ぜ合わせ作製されており、それらの材料の検証も、SEM(電子顕微鏡)レベルと物理学的検証しかなされてきていませんでした。本研究は、分子・原子レベルでの研究で、医科歯科は



もとより工学的なところを含めた検索をかけても世界初と言っても過言ではありません。今までの、歯科の実験体系とは根本的に異なり、今後の歯科界に新しい波が起こるかもしれません。

これまでの、マウスガードの素材の劣化を検証することにより、保存方法や交換時期についての科学的裏付けに対する研究でしたが、新素材の研究についても着手していきたいと考えています。また将来的には、マウスガードの材料のみならず、歯科材料全般についての研究開発、そして脱灰や再石灰化等のメカニズムの研究にも

繋げていき、群馬発の情報発信が出来ればと思っています。

後述)これまでのマウスガードの素材についての研究は、先に開催された第7回日本歯科衛生学会や高崎で開催された全国学校歯科保健研究大会、第62回高分子学会、第24回日本スポーツ歯科医学会でも発表しています。



東京都女性歯科医師の会

平成25年度 秋の学術講演会・懇親会のご案内

<http://www.tokyo-woman-dentists.com/>

東京都女性歯科医師の会 副会長 鈴木千枝子（昭和53年卒）

「年を重ねていく」ことと「老いていく」ことには大きな違いがあります。

例え何歳になっても、脳も筋肉も鍛え始めれば、そこから成長を始めます。健康という幅の中で個々の状態を意識し、いかに病気になるかを考えることがこれ

からの医療です。そこで、血液内科を専門として予防医学とアンチエイジングの視点から開業をされている澤登雅一先生と、運動機能学的に身体のコアを鍛えることからアンチエイジングを実践されているハル常住先生を講師にお招きして、これからの時代の健康につ

いて考えていきたいと思えます。また、懇親会では楽しい「Magic Show Time」もあります。ご家族・ご親戚・お友達・スタッフ、皆様での参加をお待ちしております。では、会場でお会いいたしましょう。

講演会

めざせ！！ ぴんぴん ☆キラリン☆

— 健康へのアプローチ —

1) 日 時：平成25年10月6日（日）

2) 場 所：ホテル椿山荘東京 ボールルーム ※ホテル内 無料託児所設置 事前要予約

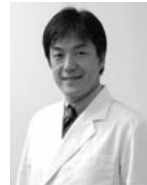
講演会 10：00～13：00

講演Ⅰ 10：10～11：30

講 師：三番町ごきげんクリニック

院長 澤登 雅一 先生

演題名：健康の基盤づくりとアンチエイジング



医学博士

日本内科学会総合内科専門医

日本血液内科学会専門医

日本がん治療認定機構がん治療認定医

日本抗加齢医学会評議員・専門医

米国先端医療学会（ACAM）キレーション治療認定医

講演Ⅱ 11：40～13：00

講 師：ハルススポーツプロダクション株式会社

主宰 ハル 常住 先生

演題名：健康の運動学とアンチエイジング

—コアトレーニング ケガをしない身体づくり—



日本体育大学卒業 器械体操指導

米国商務省 商務補佐官

アトランタメトロポリタン GC 所属プロゴルファー

ハルススポーツプロダクション設立

日本体育大学講師歴任

東京国際大学客員教授歴任

通商産業省“次世代型ゴルフ研究会”

懇親会 13：30～15：30

「Magic Show Time」

演 者：如月 琉 様

3) 会 費：講演会 研修医・学生 無料 会員および家族・スタッフ 2,000円 非会員4,000円

懇親会 4,000円（但：小学生未満無料 小学生まで半額）

4) Fax 申込先：(医) 高慈会 高野歯科クリニック 高野博子（昭和55年卒）

Fax 03 (3601) 2543 HP から申込用紙をダウンロードできます。

庶務日誌

- 7月
- 1) 理事会
7月24日(水) 第4回常任理事会
- 2) 委員会
7月1日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
3日(水) 会務検討特別委員会
5日(金) 渉外部渉外委員会
5日(金) 会員管理システム検討委員会
8日(月) 事業推進部(企画会議)
9日(火) 同窓会アカデミア構想検討会(仮称)
10日(水) 広報部広報委員会
11日(木) 総務・厚生部厚生委員会
11日(木) 事業推進部学術委員会(研究部)
12日(金) 新進会員のつどい運営委員会(予演会)
16日(火) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
16日(火) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
17日(水) 同窓会アカデミア構想検討会(仮称)
22日(月) 同窓会・会務運営協議会
22日(月) 事業推進部大学連携委員会
23日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
30日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 3) 出張
7月5日(金) 浅草支部学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)
6日(土) 埼玉県支部総会 浮地副会長出席学術講演会 講師・井上孝教授(母校)
6日(土) 群馬県支部学術講演会 講師・宮地建夫先生(東京都開業)
7日(日) 愛知県支部学術講演会 講師・加藤広之講師(母校)
- 7日(日) 静岡県支部学術講演会 講師・片倉朗教授(母校)
8日(月) Elective study Program 表彰式(3~6年生)
19日(金) 水道橋新校舎竣工式ならびに直会(仮称) 矢崎会長, 他役員出席
- 4) 事業
7月7日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.3 実習セミナー1「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」2
7日(日) 学年代表者会
20日(土) TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース③
21日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース④
28日(日) 新進会員のつどい
- 8月
- 1) 委員会
8月1日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会実行委員会
4日(日) 事業推進部学術委員会(全体委員会)
5日(月) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
6日(火) 事業推進部保健委員会
9日(金) 会務検討特別委員会
21日(水) 会務検討特別委員会
23日(金) 広報部広報委員会
26日(月) 同窓会・会務運営協議会
30日(金) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 2) 出張
8月24日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 蛭谷常任理事出席
25日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 蛭谷常任理事出席
31日(土) 水道橋新校舎竣工記念式典(仮称) 矢崎会長, 他役員出席

訂正とお詫び

会報「391号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P28 母校だより 第118回卒業証書授与式・卒業論文賞

誤：藤重玲子

正：重藤玲子

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

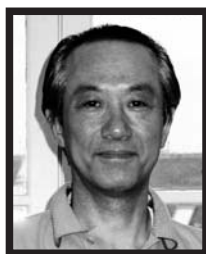
(敬称略・届出順)

●昭 20.9 卒	田 崎 敬 (90歳)	埼玉県吉川市	25. 5. 23
●昭 23 卒	大 貫 英 世 (86歳)	茨城県龍ヶ崎市	25. 5. 29
●昭 29 卒	高 橋 廉 平 (83歳)	千葉県市川市	25. 5. 31
●昭 28 卒	嶽 崎 寿太郎 (90歳)	宮崎県小林市	25. 6. 8
●昭 38 卒	坪 井 義 明 (76歳)	愛知県名古屋市	25. 6. 3
●平 9 卒	大 嶋 貴 子 (40歳)	東京都品川区	25. 6. 10
●昭 17.9 卒	伊 藤 敏 夫 (92歳)	愛知県名古屋市	25. 6. 10
●昭 11 卒	尾 形 新 (99歳)	山形県寒河江市	25. 5. 31
●昭 27 卒	鎗 田 秀 夫 (82歳)	群馬県桐生市	25. 6. 12
●昭 25 卒	大 沼 勝 男 (87歳)	東京都世田谷区	25. 6. 16
●昭 28 卒	今 井 豊 享 (84歳)	東京都世田谷区	25. 6. 18
●昭 23 卒	秀 旭 (86歳)	東京都荒川区	25. 5. 18
●昭 25 卒	穂 坂 直 彦 (83歳)	埼玉県富士見市	25. 6. 30
●昭 28 卒	兵 藤 佐 一 (89歳)	東京都世田谷区	25. 7. 9
●昭 35 卒	太 田 是 男 (79歳)	東京都	25. 7. 10
●昭 54 卒	武 田 勤 (60歳)	秋田県由利本荘市	25. 7. 13
●昭 33 卒	高 野 恭 (80歳)	埼玉県羽生市	25. 7. 15
●昭 40 卒	深 谷 竹三郎 (73歳)	静岡県浜松市	25. 7. 18
●昭 18.9 卒	森 田 敏 弘 (90歳)	東京都世田谷区	25. 7. 18
●昭 28 卒	西 山 巖 (85歳)	神奈川県横浜市	25. 7. 31

追 悼

武田 勤 先生を偲んで

弥生会(昭和54年卒)



去る7月13日、奥様の武田智里先生からの電話にて貴君の逝去の報を受け、呆然自失。以前から奥様から病状を伺っていたもののこんなに早く別れの時がくるとは。

思えば、父親同士も同じ東京歯科大学で、貴君とは幼稚園の時から一緒でしたね。一番思い出すこと

は市川の学園祭の仮装行列で端整な顔立ちの貴君は女装して艶やかだったこと。そして水道橋に行っでは秋田県人会では、普段の標準語がいつの間にか方言で、飲み語り明かしましたね。あの青春時代を懐かしく思い出し、また共有できたことは幸せでした。一足早く、帰郷された貴君は、両下肢麻痺を患っていながらも、県歯科医師会の理事や市の歯科医師会の議長などの要職を歴任されて積極的

に会務をこなすと同時に、地域医療に対しても、スタディーグループを立ち上げ、先頭をきって活躍されていましたね。6月初めに貴君とお会いし「山ちゃん、癌治療で痩せちゃって、声もしゃがれちゃったよ。ああ、酒呑みてえな。」が最後の会話になりました。もう病氣と闘わなくていいんですよ。ゆっくりやすんで、酒を呑んでくださいね。 合掌

(昭和54年卒・山田耕一郎 記)

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	— —	FAX 番号	— —	
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき <input type="checkbox"/> ふるさと自慢 <input type="checkbox"/> すいどうばし <input type="checkbox"/> いなげ <input type="checkbox"/> クラス会だより <input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

いいんかいしょうかい

保険委員会は、現在11名の委員と2名の協力委員の計13名で運営しております。

近年の厳しい歯科医療保険環境の中、同窓の会員の方々に少しでも有益な情報をお伝えできるよう、努めております。

会報の「保険」ページでは、日々の診療における請求方法のヒント、請求誤りの多い事例の解説、支払基金の現況等を掲載していますので、参考にして頂ければと思います。

また、毎年秋に厚生労働省と日本歯科医師会の共催による「社会保険指導者研修会」終了後、同窓会全国保険関係懇談会を開催し、講演会、各地区との情報交換の場を設けています。昨年は、日本歯科総合研究機構の恒石美登里先生をお招きし、24年度改定に関する貴重なお話を頂きました。今年も9月27日に開催されますので、全国の同窓の保険関係指導者の先生方が集まる数少ない機会であり、有意義な時間にと考えております。

保険委員会も更に今後の医療保険制度の在り方等についても討議できるよう、蛭谷担当常任理事を筆頭に委員一同頑張っていきたいと思っております。同窓の先生方の更なるご指導ご鞭撻をお願い致します。

保険委員会委員長 関川嘉昭



- ◆へんしゅうこうき
- ★ 梅雨が早く明けて猛暑日が続く毎日ですが、本誌がお手元に届く頃は、少しは涼しくなっているのでしょうか。
 - ★ 「東京歯科大学学術機関リポジトリ」(IRUCCA)をご存知でしょうか。これは学術研究成果をインターネットで誰でもアクセス可能にするものです。論文、歯科学報などが過去の文献から現在まで自由に閲覧できます。中でも、血脇守之助先生に関する著書や論文、昭和54年に編纂された「血脇守之助伝」をすべて読むことができます。「血脇守之助伝」は昭和45年から9年間かけて石川達也先生を中心に刊行され、物語としてもとても読み易く興味深いものになっています。
 - ★ 先日、渡辺淳一原作の「雲の階段」というテレビドラマの中で、主人公の偽医者が勤務している病院の事務員に厚生労働省の「医師検索」をされ、発覚してしまうというストーリーでした。そんなものがあると知り、インターネットで「医師等資格確認検索」をしてみると、氏名と登録年がヒットしてきます。自分を含め何人か知人同級生を検索していると、確かに一緒に卒業し国家試験に合格した同級生が出てきません。調べてみると、どうやら厚生労働省に2年に1度の届出を何らかの原因でしていなかったためのようなのでした。開業している先生、大学に勤めている先生は問題ないと思いますが、勤務されている先生は一度調べてみてはいかがでしょうか。(島田 篤 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
委 員 古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭子
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
宇佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成25年8月20日 印刷
平成25年8月25日 発行
東京歯科大学同窓会会報 第392号
同窓会ホームページアドレス
<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修
編集人 白 田 準
東京歯科大学同窓会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
電話 (03) 5275-1761
FAX (03) 3264-4859
印刷所 一世印刷株式会社
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
電話 (03) 3952-5651 (代)